



ふなばし 探訪手帖

～四季を彩る 文化財～

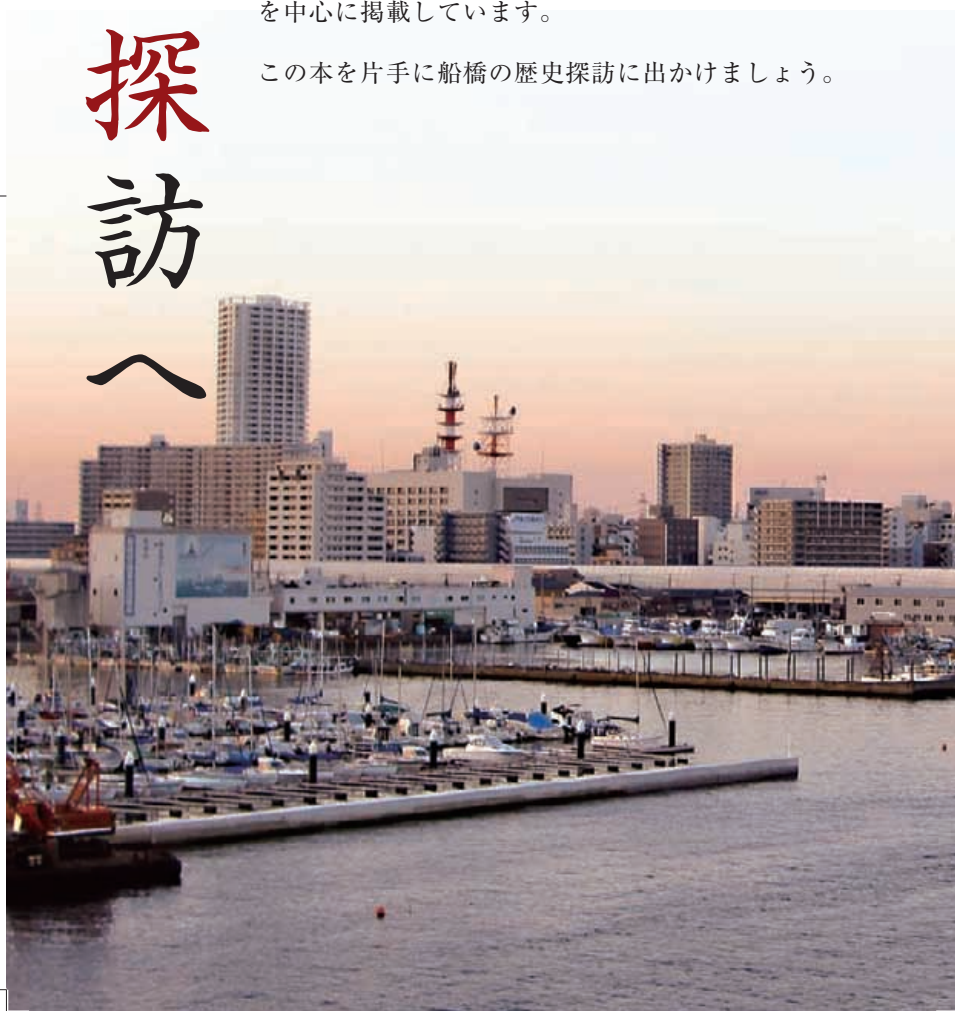


船橋歴史探訪へ

自然の恵みが豊かな船橋には早くから人が住み始め、旧石器時代から近世までの遺跡、平安時代末頃の作とされる仏像、江戸時代から続く神楽など、多くの文化財が今も残っています。

本書では、船橋市内で行われている行事・祭礼などの無形民俗文化財、建造物・彫刻などの有形文化財を中心に掲載しています。

この本を片手に船橋の歴史探訪に出かけましょう。



船橋市は昭和12年(1937)4月、当時東葛飾郡の内にあった船橋町、葛飾町、八栄村、法典村、塚田村の5つの町村が合併し、千葉県内で4番目の市として発足。その後、昭和28・29年(1953・1954)に二宮町と豊富村を合併して、今日の基礎ができました。

【歴史探訪者のマナーについてのお願い 8 か条】

1. その土地で生活している人たちへの配慮を忘れずに。
2. 文化財等の所有者・管理者等への敬意を忘れずに。
3. 常時公開のもの以外は事前に許可を受けてから。
4. 信仰の対象物にはしかるべき配慮を。
5. 現状の保存に注意を。手を触れるのはどうしても必要な時だけ。
6. 記録には原則として鉛筆を。インク等による汚損には特に注意を。
7. 写真撮影時には照明の使用に注意を。(光・熱による劣化・行事への妨害等)
8. 草木・土石等の採取は厳禁。文化財と同様に環境保護にも留意を。

ふなばし探訪手帖 ～四季を彩る 文化財～

発行日 平成 24 年 3 月 30 日
発行者 船橋市教育委員会
千葉県船橋市湊町 2-10-25
編集者 船橋市教育委員会文化課
☎ 047-436-2898
制作 株式会社地域新聞社

※表紙の写真はイメージです
※掲載情報は平成 24 年 3 月 1 日現在のものです



発行：船橋市教育委員会



ふなばし探訪手帖 ～四季を彩る 文化財～ ー目次ー

旧暦と新暦のはなし 4

船橋の四季の行事・祭事 ... 5

春

行事カレンダー 6	海神の天道念仏 7
飯山満町神明社の神楽 8	水神祭(船橋大神宮の神楽) 9
高根町神明社の神楽 10	船橋ばなし 船橋市内で見る満開の桜 ... 11

夏

行事カレンダー 12	お舟流し 13
金堀のホウネンボウ 13	ふなばし市民まつり/梯子乗りと木遣り歌 ... 14
船橋市の夏祭り 15	神保ばやし 16
小室の獅子舞 17	

秋

行事カレンダー 18	古和釜のマアチ 19
二宮神社の神楽 20	高根町神明社の神楽 21
奉納相撲/船橋大神宮の神楽 22	飯山満町神明社の神楽 23
飯山満町大宮神社の神楽 24	船橋ばなし 市内の銘木、紅葉 25

冬

行事カレンダー 26	大火揚/ 船橋ばなし 文化財防火デー ... 27
西の市/船橋大神宮の神楽 28	年初行事 正延寺 木造五智如来坐像 御開帳 ... 29
年初行事 船橋大神宮の神楽 30	年初行事 高根町神明社の神楽 31
年初行事 飯山満町大宮神社の神楽 ... 32	年初行事 出初式/梯子乗りと木遣り歌 ... 33
年初行事 灯明台祭 34	オビシャ 35
筒粥神事/二宮神社の神楽 36	金堀の初ばやし 37
春ギトウ 37	節分祭 38
中野木の辻切り 39	大仏追善供養 40

この本の読み方

開催場所の地図での位置

行事開催日

所 所在地、開催地
時 開催時間
☎ お問い合わせ先
交 最寄り駅から文化財までのアクセス
 ※歩く速度は人によって違うため、目安としてご利用ください。本書では1分間に80mの歩行速度として計算しています
指 登 その文化財が指定・登録された年月日

指定・登録情報
見学・公開情報
行事・文化財名称

そのページの文化財がある(開催される)エリア

➡近隣で見られる文化財
行事が行われる場所の近くにある文化財

船橋に残る有形文化財 … 41

船橋駅周辺エリア

西福寺石造五輪塔・西福寺石造宝篋印塔 … 42	灯明台 …… 43
天正検地帳 …… 44	船橋浦漁業関係古文書類 …… 45
明治天皇船橋行在所 …… 46	難陀龍王堂 …… 47
木造阿弥陀如来立像 …… 48	船橋御殿跡 附 東照宮 …… 49
鐘楼堂跡 附 和時計 蜀山人筆 …… 50	飛ノ台貝塚 …… 51
玉川旅館 (本館・第一別館・第二別館) …… 52	

西船橋エリア

葛羅の井 …… 53	成瀬氏の墓 附 墓誌 …… 54
------------	------------------

薬台台・三山エリア

観信の墓 附 木造地藏菩薩坐像 …… 55	齋藤その女等奉納句額 …… 56
二宮神社社殿 …… 57	瑞花双鳳五花鏡・梅花文鏡筥 (残欠) …… 58
習志野地名発祥の地 附 明治天皇駐蹕之處の碑 …… 59	

飯山満町・高根町エリア

八十八ヶ所札所大絵馬 …… 60	木造地藏菩薩坐像 …… 62
東葉高等学校正門 (旧近藤家住宅長屋門) …… 63	

北部エリア

石造自休大徳坐像 …… 64	俳人齋藤その女の墓 …… 65
木造毘沙門天立像 …… 66	板碑 (弘安九年七月十五日在銘) …… 67

文化財を巡るお散歩マップ ～木下街道～ …… 68

文化財を巡るお散歩マップ ～坪井周辺～ …… 70

十四の橋と文化財を巡るお散歩マップ ～海老川沿い～ …… 72

船橋ばなし

限られたときにしか見られない文化財 …… 74

資料編 … 75

エリア地図

船橋市・周辺広域地図 …… 76	船橋駅周辺エリア …… 78
西船橋エリア …… 80	薬台台・三山エリア …… 81
飯山満町・高根町エリア …… 82	北部エリア …… 84
交通路線図 …… 86	船橋市略年表 …… 89
船橋市内の指定文化財・登録文化財 …… 93	参考文献 …… 95
五十音索引 …… 96	

明治5年12月2日の翌日が、明治6年1月1日？

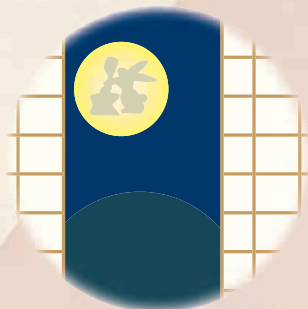
旧暦と新暦のはなし

現在、日本をはじめ世界各国で用いられている暦(=新暦)はグレゴリオ暦という太陽暦で、1年を365日とする暦です。400年間に97回のうるう年を置いて、その年を366日としています。これは400年間にわたる1年の平均日数を365.2425日にするためです。グレゴリオ暦は旧暦から改暦されたあとの新しい暦ということで、“新暦”とも呼ばれます。

日本の旧暦は、「天保暦」です。天保暦は今なお占いや伝統行事などで用いられており、旧暦、もしくは陰暦の俗称で用いられております。正しくは、「^{てんぽうしんいんげんれき}天保壬寅元暦」といいます。この天保暦は日本最後の太陰太陽暦で、徳川幕府より命じられた天文方^{しづかわかげすけ}渋川影佑らにより天保13年(1842)に完成し、弘化元年(1844)から用いられました。太陰太陽暦としては最も精密なもので、二十四節気^{ていきせつ}を決定するのに定気法^{ていきほう}を用いました。

明治5年(1872)には日本でも旧暦の11月9日に新暦への移行が布告され、明治5年12月2日(旧暦)の翌日が、明治6年1月1日(新暦)になりました。旧暦の年初は、新暦の2月4日頃(立春)を基準にして前後15日頃の間に来ていましたので、日付は現在と比べて約20~50日くらい違っていたことになります。

暦のなかで“立春”や“夏至”などの季節を表す言葉は「二十四節気」といい、1年を春夏秋冬の4つの季節に分け、さらにそれぞれを6つに分けたものです。「節(節気)」と「中気(気)」が交互に並び、中気のない月をうるう月としていました。



二十四節気まとめ

季節	節月	せつ節	ちゅうき中気
春	一月	立春 (2月4日頃)	雨水 (2月19日頃)
	二月	啓蟄 (3月6日頃)	春分 (3月21日頃)
	三月	清明 (4月5日頃)	穀雨 (4月20日頃)
夏	四月	立夏 (5月5日頃)	小満 (5月21日頃)
	五月	芒種 (6月6日頃)	夏至 (6月21日頃)
	六月	小暑 (7月7日頃)	大暑 (7月23日頃)
秋	七月	立秋 (8月8日頃)	処暑 (8月23日頃)
	八月	白露 (9月8日頃)	秋分 (9月23日頃)
	九月	寒露 (10月8日頃)	霜降 (10月24日頃)
冬	十月	立冬 (11月7日頃)	小雪 (11月22日頃)
	十一月	大雪 (12月7日頃)	冬至 (12月22日頃)
	十二月	小寒 (1月5日頃)	大寒 (1月21日頃)

※ 国立国会図書館HPを元に製作



船橋の 四季の行事・祭事

春の水神祭、夏祭り、秋の神楽、

年初に行われる行事など、

市内ではたくさんの歴史ある行事が行われています

行事とともに大切に受け継がれてきた、

「船橋の文化」を感じに出かけてみましょう



春

500本の桜並木、海上で行われる神楽…

春の船橋には見どころがたくさんあります

市内南部を流れる海老川。両岸には500本の桜があり、春には見事な桜並木を臨める市内有数の桜の名所です。シーズン中は花見客でにぎわいます。夜にはライトアップされるので、夜桜も楽しむことができます



▲船橋漁港で行われる水神祭。
海上の船の上で神楽が奉納される

3月

第一日曜日 海神の天道念仏
初午 飯山満町神明神社の神楽

4月

3日 水神祭(船橋大神宮の神楽)

5月

1日 高根町神明社の神楽

P78・A-3 海神／念仏堂 見学自由

3月
第一日曜日

復活した天道念仏

海神の天道念仏

天道念仏は一般に2～3月頃に千葉県の千葉郡、印旛郡、南相馬郡、東葛飾郡など下総一帯を中心に、北は栃木県、茨城県から福島県の一部まで、また埼玉県の一部や長野県の一部に及ぶ広い範囲で行われている（行われていた）行事で、冬の間に弱まった太陽の力を復活させ、当年の豊作を祈願するものだといわれています。

海神で行われる天道念仏では、組み上げたボンテン（祭壇）中央に大日如来をまつり、その周りを、男たちは鉦・太鼓をたたきながら「テントウダーンマイダー」と唱え、女たちは扇を手にもわり踊ります。休憩を入れながらまわり踊った後、男たちによって祭壇が片付けられます。

天道念仏は市内では海神のほか、中野木でも3月15日に自治会館で行われています。中野木は明治前半頃までは上飯山満に含まれていた地で、もともとは上飯山満東福寺で一緒に行っていたと伝えられています。早期に中野木独自の天道念仏を執行するようになったといわれています。



▲雨天の場合は堂内で行われる

- 所 船橋市海神1-17-16 時 11:00～
☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)
🚶 京成電鉄 海神駅から徒歩10分
➡ 近隣で見られる文化財
① 飛ノ台貝塚 …… P51
② 玉川旅館 …… P52



船橋駅周辺エリア

P82・B-3 飯山満町／飯山満町神明神社 見学自由

3
月
初
午

下飯山満に伝わる里神楽

は さ ま ち ょ う し ん め い じ ん じ ゃ か ぐ ら 飯山満町神明神社の神楽

飯山満町・高根町エリア



大漁の喜びを表現している
「恵比寿・お亀・蛭子舞」

この辺りは“^{しもはさま}下飯山満”と呼ばれていた地域で、神明神社は、その産土^{うぶすな}社です。祭神は意富比神社（船橋大神宮）と同じ、天照大御神です。

ここ神明神社の神楽の由来は、百数十年前に、船橋大神宮から舞とともに衣装や面、楽器などがもたらされ、それが今に伝わり、現在でも曲の調子は船橋大神宮のものと似ていると言われています。

この神楽で使われる楽器は^{おおど}大胴1名、鼓1名、打ち鳴らし（じゃんじゃん）1名、笛3名です。打ち鳴らしは裏で打ちます。

伝承されている曲目は12座ですが、天岩戸（戸隠しの舞）は、この3月の初午では演じられません。境内には子供たちもたくさん集まり、とても賑やかな雰囲気の中で行われる神楽です。



▲餅投げが行われる「3人舞（三神の舞）」

所 船橋市飯山満町1-639

時 19:00～

☎ 047-436-2898（船橋市教育委員会 文化課）

🚗 JR船橋駅からバスで「吹上」下車、徒歩すぐ

➡近隣で見られる文化財

①八十八ヶ所札所大絵馬（能満寺）……P60

②東葉高等学校正門……………P63



P78・B-4 湊町／船橋漁港

市指定無形民俗文化財(神楽)

見学自由

4
月
3
日

江戸時代から続く豊漁と海上安全を祈願する祭礼

すい じん さい ふな ばし だい じん ぐう か ぐ ら
水神祭(船橋大神宮の神楽)



◀ 船上で舞われる神楽(蛭子舞)

▼ 水神祭の神事
(降神の儀)

船橋駅周辺エリア

船橋市漁業協同組合が主催し、漁業管内の町会が参加する、豊漁と海上安全を祈願する祭礼です。冬の貝漁から春の魚漁への切り替えの重要な節目とされ、江戸時代から続く行事です。



水神祭は、船橋港の岸壁に接岸された船の上で、始めに神事が執り行われます。神事に続いて、市指定無形民俗文化財「船橋大神宮の神楽」が奉納され、最後に演じられる「山神舞」では餅が撒かれます。神事を終えると、船上から観客に向かって餅撒きが行われ、船は沖合いへ向かいます。三番瀬の沖合いに出ると、神前に供えられた五穀(米、麦、粟、稗、大豆)を一升杓に入れ、種蒔きをして祈りを捧げ、港に戻ります。

戦前は、学校が休みになった子供たちも小さな船で集まり、周辺には100艘にも及ぶ船が集まり賑わいました。祭には赤飯を炊き、里芋煮などのご馳走やシンコ餅について草餅を作ったそうです。

- 所 船橋市湊町(船橋漁港) 時 10:00～
☎ 047-436-2898(船橋市教育委員会文化課)
交 京成電鉄 大神宮下駅から徒歩13分
指 平成7年6月26日
➡ 近隣で見られる文化財
① 難陀龍王堂(覚王寺)……P47
② 玉川旅館……P52



P82・B-2 高根町／高根町神明社 市指定無形民俗文化財 見学自由

5月1日 日本武尊舞・大蛇之舞は、市内ではここでしか見られない

高根町神明社の神楽

平成7年(1995)に船橋市の無形民俗文化財に指定された「高根町神明社の神楽」。神楽を伝えているのは地元の人たちで構成される高根町神明社神楽連の方たちです。

高根町神明社の神楽は、明治時代の初めに、風早(柏市・旧沼南町)の塚崎神明社より習ったと伝えられ、見つかった「歴代神楽連名簿」により、その伝承が裏付けられました。記録によると最初の奉納は明治6年(1873)となっています。

現在演じられている曲目は、①神子舞、②猿田彦命舞、③湯笹舞、④日本武尊舞、⑤鉦女之舞、⑥剣打ち之舞、⑦玉取り之舞、⑧大蛇之舞、⑨神明之舞、⑩恵比壽舞、⑪天狐の舞、⑫翁舞、⑬ぎおん舞、⑭天の岩戸舞、の計14座。このうち、④日本武尊舞と⑧大蛇之舞は、市内では高根町神明社でしか演じられていない曲目です。

▼「大蛇之舞」。中央は暴れる大蛇



▶市内では高根町神明社でしか演じられない「日本武尊舞」



所 船橋市高根町600

時 18:00～

☎ 047-436-2898(船橋市教育委員会 文化課)

🚗 JR船橋駅北口からグリーンハイツ行きバスで「高根小学校前」下車、徒歩15分

指 平成7年6月26日

➡近隣で見られる文化財

①八十八ヶ所札所大絵馬(観行院)……P61

②東葉高等学校正門……………P63



船橋 話

近隣の文化財と一緒に見よう

船橋市内で見る満開の桜

都市と自然が融合する船橋には桜の名所もたくさんあり、花見シーズンには多くの人が集まります。代表的なところとしては、両岸に約500本の桜が並び川面を覆



◀「海老川沿いジョギングロード」 八栄橋から船橋市場までの沿岸に約500本の桜が植えられている

うように咲き誇る「海老川沿いジョギングロード」、約29haの広大な土地にたくさんの桜が植わっている「ふなばしアンデルセン公園」、公園内をぐるっと一周するように桜が咲く「御滝公園」などがあります。桜の開花の季節に、花見をしつつ、近隣の文化財に足を伸ばしてみるのも、いいのではないのでしょうか。

市内の
桜
スポット



◀「古作道」 中山競馬場の南の交差点を行田方面に向かう通り。道沿いに桜並木が続く



▲「御滝公園」 新京成電鉄 滝不動駅より徒歩10分。ソメイヨシノが約100本植えられ、例年桜祭りが行われる

◀「二和道」 船橋二和高校近くの二和道沿いには桜が並び、開花シーズンには桜のトンネルのようになる

夏

心おどる祭りの季節 “粋な”

船橋を体感しにいきましょう

▶郷土の特色がよく出ている
神保町の「神保ばやし」



▲ふなばし市民まつりには、本町御輿と湊町御輿の2基の御輿が登場します。船の揺れを模したゆすり込みを行い、担ぎ手のかけ声とともに、御輿が右へ左へ激しく揺さぶられます

7月

15日 お舟流し

15日 ホウネンボウ

下旬 ふなばし市民まつり/梯子乗りと木遣り歌

22日・23日 印内八坂神社の祭礼

第四土曜日 神保ばやし

8月

21日 小室の獅子舞(八朔の日にも演じられる)

※ 平成20年より中止しています

P81・D-4 三山／二宮神社 見学自由

7月15日 御手洗の流れに浮かぶ 二艘のススキ舟 ふね なが お舟流し

平安時代に都から三山の地に流されてきた
藤原師経が救されて都へ帰る際、その船を送
ったことになぞらえているというお舟流し。社殿
内での式典後、境内の御手洗の流れに、スス
キを束ねた「お舟」を二艘浮かべ、笹付きの真
竹を四隅に立て、その内側に10本のヘイソクを
立てます。



北部エリア
薬円台・三山エリア

所 船橋市三山5-20-1(二宮神社)
時 10:00～
☎ 047-436-2898
(船橋市教育委員会 文化課)
交 JR津田沼駅北口から二宮神社
行きバスで終点下車



▲御手洗は、正面参道の石段を降
りた脇にある

P85・C-3 金堀町／日枝神社より 見学自由

7月15日 世代を超えて紡ぐ地域行事 金堀のハウネンボウ

金堀のハウネンボウは、同町で1月17日に行なわれる初ばやしと対をなす
行事と考えられている、悪魔祓いの行事です。3メートルほどの丸太の中央
部に榊の枝の束をくりつけ、さらに化粧縄をかけ
たものを神輿の代わりとして担ぎ、ムラウチの各家
の玄関先で
かけ声をあ
げながら悪
魔祓いをし
ます。

▶ハウネンボウ
を担いで回る
のは少年少女
たち



所 船橋市金堀町471(日枝神社)より
時 17:00～
☎ 047-436-2898
(船橋市教育委員会 文化課)
交 JR船橋駅北口より豊富農協
前行きバスで「金堀」下車、
徒歩1分

P78・B-3 本町・宮本通り、駅前通り

市指定無形民俗文化財(梯子乗りと木遣り歌)

見学自由

7月下旬

市民まつりで披露される江戸の火消しの妙技

ふなばし市民まつり/梯子乗りと木遣り歌

船橋駅周辺エリア

ふなばし市民まつりは、7月下旬に3日間にわたって行われる大規模なお祭りで、市内外から多くの方が訪れます。2日目・3日目は交通規制も行われ、3日目には本町 神輿・湊町 神輿の渡御、民踊パレード、ばか面パレード、梯子乗りと木遣り歌などが行われます。



▲本町神輿・湊町神輿の渡御

本町・宮本通り、駅前通りで行われる市指定無形民俗文化財の梯子乗りと木遣り歌は、江戸の町火消の^{まちびけし}面影をよくとどめた演技で、船橋鳶職組合若鳶会によって^{とびよく}伝承されています。^{わかとびかい}

梯子乗りは高さ約3間半(6.3m)の梯子の上で、トオミ・カンタン・ウデダメ・キモツブシ・セガメ・サカサダイノジ・ホカケなど、12~13種の妙技が披露されます。木遣り歌は通し5曲と端もの数曲が伝えられ、その中から数曲が歌われます。



▶若鳶会による「梯子乗り」



▶親鳶会による「木遣り歌」



所 本町・宮本通り、駅前通り

時 市民まつりフリーフェットをご参照ください

☎ 047-436-2898(船橋市教育委員会文化課)

交 JR船橋駅、京成電鉄 京成船橋駅から徒歩6分

指 昭和44年4月17日

➡近隣で見られる文化財

① 明治天皇船橋行在所(千葉銀行船橋支店)……P46

② 船橋御殿跡 附 東照宮……P49

P80・B-2 印内／八坂神社

P79・C-3 宮本／船橋大神宮ほか

P80・B-3 西船／山野浅間神社

見学自由

7
月

市内各所で行われる

ふな ばし し なつ まつ
船橋市の夏祭り

夏祭りは、高温多湿で疫病が蔓延しやすい時期に、疫病や災いを祓うために行われてきました。とりわけ都市部で盛んに行われ、町会毎に神輿や嗜好を凝らした山車を仕立てて町内(氏子の範囲)を順行し、夏の祓いをしました。こうした夏祭りは現在でも行われており、印内の八坂神社、漁師町の天王様(八劔神社の祭礼)などがあります。

印内の八坂神社の祭礼は、7月22日・23日に行われ、22日に子供神輿、23日に大人神輿の渡御が行われます。八坂神社の御神体は荒神(スサノオノミコト)のため、23日の神輿は荒々しくもまれます。

八劔神社はもともと本町3丁目の円蔵院の北西にあった神社で、明治41年(1908)に大神宮境内の金比羅神社に合祀ごうしされました。祭礼は3年に一度行われる例大祭とその間の2年間に行われる陰祭があり、陰祭では神輿渡御は行われず、式典だけが行われます。平成22年の例大祭は5日間にわた



▲印内八坂神社の荒々しい神輿渡御

って行われ、2～5日目には各町で神輿のゆすり込みが行われました。

これらのほかにも、神保ばやし(P16)が行われる神保町須賀神社の祭礼や山野浅間神社の祭礼など、夏祭りは市内の各所で行われています。

〈印内八坂神社の祭礼〉

所 船橋市印内2-7-8 日 7月22日・23日

交 京成電鉄 京成西船駅より徒歩19分

〈八劔神社の本祭・陰祭〉

所 船橋市宮本5-2-1(船橋大神宮)/船橋市湊町ほか

日 ※お問い合わせください

交 京成電鉄 大神宮下駅から徒歩3分

〈山野浅間神社の祭礼〉

所 船橋市西船1-5-7 日 7月1日

交 京成電鉄 海神駅から徒歩15分

祭礼へのお問い合わせは、

☎ 047-436-2898(船橋市教育委員会 文化課)

【地図はP76～のエリア地図参照】

▼多くの方が訪れる山野浅間神社祭礼



西船橋駅周辺エリア

P84・B-2 神保町／須賀神社 市指定無形民俗文化財 見学自由

7月
第4土曜日

神保特有の郷土色豊かな祭ばやし

じん ぼ 神保ばやし

北部エリア



神保ばやしは7月の第4土曜日に行われる

八木が谷に伝わる深川ばやしを江戸時代末期から明治時代初めに受け継いだといわれる「神保ばやし」。神保の地に定着してから、旋律の組み合わせやリズム、テンポに独特の工夫が重ねられたようで、リズムは簡潔で力強く、きめ細やかな旋律の響かせ方がたくみに組み合わせられ、現在では他の地域のものとは異なる郷土色をつくり出しています。

構成は、大太鼓1人、小太鼓2人、笛1人、鉦1人の5人。曲は「はやし」「しょうでん」「しちょうめ」「かまくら」「おかざき」の5曲からなり、かまくら・おかざきで「ひょっとこ」が登場。続いて「おかめ」が出て踊ります。

地方によってさまざまな祭ばやしが伝えられていますが、神保ばやしは地方的な特色がよくあらわれていて、船橋の民俗芸能として貴重なものです。

所 船橋市神保町102(須賀神社) **時** 18:00～

☎ 047-436-2898(船橋市教育委員会文化課)

交 JR船橋駅、新京成電鉄 三咲駅から豊富・小室方面行きバスで「須賀神社」下車

指 昭和54年7月28日

※詳しい日程は船橋市教育委員会 文化課までお問い合わせください

➡近隣で見られる文化財

①俳人齋藤その女の墓<西光院>…………… P65

②木造毘沙門天立像<西福寺>…………… P66



P85・右上 小室町 県指定無形民俗文化財

8
月
21
日

9
月
1
日

雄獅子と中獅子が雌獅子を取り合って乱舞する

こむろししまい 小室の獅子舞

市内北部に位置する小室町で行われる「小室の獅子舞」。由来は分か
っていませんが、古くから豊作祈願、悪魔払い、疫病退散などに効果があ
ると伝えられています。

雄獅子と中獅子が雌獅子を取りあって乱舞する一人立ちの三匹獅子舞
で、舞い手は獅子頭を頭にのせ、杵なしの締太鼓を腰に付けて踊ります。

舞い手3人、笛3人、歌い手2人、花持ち2人、幕持ち2人で構成され、
使われる楽器は笛と舞い手の打つ太鼓だけです。

小室の獅子舞は8月21日の本覚寺の施餓鬼会と八朔の日（現在は9月1日）
に演じられていましたが、平成20年（2008）より中止となっており、舞に使用
される獅子頭は、ご供養されています。

所 船橋市小室町

☎ 047-436-2898（船橋市教育委員会文化課）

交 北総鉄道 小室駅から徒歩5分

指 昭和39年4月28日

※都合により平成20年から行事を中止している

→近隣で見られる文化財

①俳人齋藤その女の墓＜西光院＞……………P65

②木造毘沙門天立像＜西福寺＞……………P66

▼舞で使用される獅子頭。
左から、雌獅子、雄獅子、中獅子



10月 7日 古和釜のマアチ
14日 二宮神社の神楽
(葉円台神明神社にて)
15日 高根町神明社の神楽
16日 二宮神社の神楽
18日以降の最初の土曜日
飯山満町神明神社の神楽

20日 奉納相撲 / 船橋大神宮の神楽
23日 飯山満町大宮神社の神楽
24日 高根町神明社の神楽
(秋葉神社にて)

秋

五穀豊穡に感謝する行事が各地で行われます

この時期にしか見られない貴重な神楽も

二宮神社境内にある大イチョウ。雌木で高さは25m、幹廻りは4.7mもあります。(財)船橋市緑の基金が平成2年に行った「名木コンクール」で選ばれた、船橋市の名木10選のうちの1本です

10
月
7
日

古和釜の産土 八王子神社の祭礼

こわがま
古和釜のマアチ

古和釜の八王子神社の祭礼は“マアチ”といわれ、通常は10月7日に行われますが、下総三山の七年祭り（県指定無形民俗文化財）に参加する年は“本マチ”といわれ、11月初旬に行われます。内容も通常・中年（次の七年祭りまでの



▲マアチの中心は八王子神社氏子の20～40代

中年）・七年祭りで少しずつ異なります。

通常年の例祭では、7日午前中に幟立て・神輿の飾りつけなどの準備を行い、終了後に神輿もみをします。従来はムラウチを神輿渡御していましたが、近年の担ぎ手不足もあって境内での神輿のみだけとなりました。

中年は、日程的には通常年と同じですが、神輿渡御は神社と古和釜十字路までの大通りを往復します。

七年祭りの年は前日に勢揃い、初日に神輿が三山へ出向き、神輿勢揃いと昇殿の儀に参加します。2日目には古和釜に戻り、神輿担ぎに協力した近隣のムラ（海老ヶ作・坪井・楠が山・大穴・金堀）を神輿渡御、3日目には前日の残りのムラと古和釜町ムラウチを渡御します。



▲下総三山の七年祭り

所 船橋市古和釜町161 時 13:00～（※お問い合わせください）

☎ 047-436-2898（船橋市教育委員会 文化課）

🚌 JR船橋駅または新京成電鉄 北習志野駅からバスで「古和釜十字路」下車、徒歩8分

➡ 近隣で見られる文化財

① 石造自休大徳坐像（東光寺）……………P64

② 俳人齋藤その女の墓（西光院）……………P65



P81・D-4 三山／二宮神社 市指定無形民俗文化財 見学自由

10
月
16
日

歴史ある神社で見る、無形民俗文化財

二宮神社の神楽

薬円台・三山エリア

三山にある二宮神社は、創建を弘仁年間(810～824)にまでさかのぼるといわれる古社で、船橋市東部の代表的な神社です。二宮神社の神楽がいつ頃から伝えられているのかはよくわかっていませんが、古い装束のなかには「寛政十一未歳」(1799)や「天保八酉年」(1837)と墨で記されているものも保存されています。

神楽は年3回、1月15日、10月16日(例祭)に境内の神楽殿で、2月3日(節分祭)には社殿で演じられます。また、10月14日には薬円台神明神社でも行われます。



「三座の二」翁舞

現在伝えられている神楽は、①みこ舞、②翁舞、③猿田舞、④神明舞、⑤天狐舞、⑥うずめ舞、⑦ひりこ舞、⑧おかめ舞、⑨宝剣打ち、⑩かとり舞、⑪源三位(ぬえ退治)、⑫玉取舞、⑬山神舞(餅なげ)、⑭大黒舞、⑮獅子舞、⑯鬼の舞、の計16座。

このうち、②翁舞、③猿田舞、④神明舞は“三座”と呼ばれ特に重要だとされ、⑭大黒舞、⑮獅子舞、⑯鬼の舞は節分祭でのみ演じられます。

二宮神社の神楽は関東地方に広く伝わる十二座神楽に属するものですが、神社に奉納する神事という厳粛な面と、祭礼における娯楽性という面をあわせもつ神楽です。

所 船橋市三山5-20-1 時 13:00～

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会文化課)

交 JR津田沼駅北口から二宮神社行きバスで終点下車

指 平成7年6月26日

➡近隣で見られる文化財

① 齋藤その女等奉納句額(二宮神社)……………P56

② 二宮神社社殿(二宮神社)……………P57



P82・B-2 高根町／高根町神明社 市指定無形民俗文化財 見学自由

10月15日 1年に一度しか見られない「天の岩戸舞」が演じられる
 たか ね ちょう しん めい しゃ か ぐ ら
高根町神明社の神楽



岩屋にかくれた天照大神を連れ出し、再び世の中を明るくする「天の岩戸舞」

飯山満町・高根町エリア

10月15日の例祭で行われる神楽では、1年に一度、この日しか見るることのできない「天の岩戸舞」が行われます。

天の岩戸舞は、太陽神である天照大神が岩屋にかくれ世の中が暗くなってしまったので、天照大神を岩屋から連れ出し再び世の中を明るくするという神話を演じた舞です。舞の終盤では神楽殿を照らす照明が切られ、岩戸内は複数のロウソクのみで照らされます。このロウソクには言い伝えがあり、妊婦がお産のときに灯すと出産が軽くすむといわれています（ロウソクは短いほどいいとされています）。

神社の森に囲まれた神楽殿で夜行われる神楽は、厳粛な雰囲気につつまれています。



▲10月24日は秋葉神社でも奉納されます

所 船橋市高根町600 **時** 18:00～

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 JR船橋駅北口からグリーンハイツ行きバスで「高根小学校前」下車、徒歩15分

指 平成7年6月26日

➡近隣で見られる文化財

①八十八ヶ所札所大絵馬(観行院)……P61

②東葉高等学校正門……………P63



P79・C-3 宮本／船橋大神宮

市指定無形民俗文化財(神楽)

見学自由

10
月
20
日

徳川家康をもてなした子供相撲大会が始まり

ほうのうすもう ふなばしだいじんぐう かぐら

奉納相撲／船橋大神宮の神楽

船橋駅周辺エリア



◀境内の土俵で行われる相撲大会

毎年10月20日に船橋大神宮で行われる「奉納相撲」。^{てんしょう}天正18年(1590)にこの地を訪れた徳川家康をもてなすために子供たちを集め、相撲を取る姿を見せたことが始まりだと伝えられています。現在では大人の取り組みへと発展していますが、現在でも最初の一番は必ず子供に取組ませ、10月の別の日に子供相撲大会も行われています。

10月20日は船橋大神宮の例祭でもあり、本殿で神事が行われた後、境内の神楽殿で神楽が演じられます。船橋大神宮の神楽は一年に6回、元日、1月3日、節分祭、^{すいじんさい}水神祭、例祭、12月の二の酉で演じられ、現在10座の舞が伝えられています。

このほか、船橋大神宮では10月1～5日に農具市が開催されています。



▲神楽殿で演じられた神楽の一つ、「蛭子舞」

所 船橋市宮本5-2-1

時 11:00～(奉納相撲の競技)、11:30～(神楽)

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 京成電鉄 大神宮下駅から徒歩3分

指 平成7年6月26日

➡近隣で見られる文化財

① 灯明台(船橋大神宮)……………P43

② 西福寺石造五輪塔・西福寺石造宝篋印塔(西福寺)…P42

P82・B-3 飯山満町／飯山満町神明神社

見学自由

10月18日以降
最初の土曜日

神話を基に創作された古式豊かな神楽

はさまちょうしんめいじんじゃかぐら 飯山満町神明神社の神楽

飯山満町神明神社の神楽は年2回、3月初午と10月18日以降の最初の土曜日に行われ、10月に行われる神楽では、3月には舞われない「天岩戸（戸隠しの舞）」が演じられます。天岩戸は日本神話でおなじみの、天照大御神が岩戸に隠れ手力男命により引き出さ

れる話で、天岩戸が開かれ、中から天照大御神がゆっくりと歩み出る場面では、背後に太陽を表すロウソクが何十本も灯されます。

神明神社の神楽は船橋大神宮（意富比神社）から伝えられたといわれ、はっきりしたことはわかっていませんが、100年ほど前から受け継がれていると考えられています。現在伝えられているのは、①神子・巫女（みこ舞）、②天狗（猿田彦命の舞）、③爺面（翁舞）、④狐（天狐舞）、⑤八幡太郎 義家（知乃乃の舞）、⑥笹舞（天の宇津女の舞）、⑦小鍛冶の舞、⑧3人舞（三神の舞）、⑨ひょっとこ・ぱりぐち（火男・張口の舞）、⑩恵比寿・お亀（蛭子舞）、⑪鬼・鐘馗、⑫天岩戸（戸隠しの舞）、の12座です。



所 船橋市飯山満町1-639

時 18:00～

☎ 047-436-2898（船橋市教育委員会文化課）

🚗 JR船橋駅からバスで「吹上」下車、徒歩すぐ

➡ 近隣で見られる文化財

① 八十八ヶ所札所大絵馬（能満寺）・・・P60

② 東葉高等学校正門……………P63



面と体の動きが面白い
「ひょっとこ・ぱりぐち（火男・張口の舞）」

飯山満町・高根町エリア

▶ 12座目の「天岩戸（戸隠しの舞）」はこの日だけの演目



P83・C-3 飯山満町／飯山満町大宮神社

市指定無形民俗文化財 見学自由

10月23日

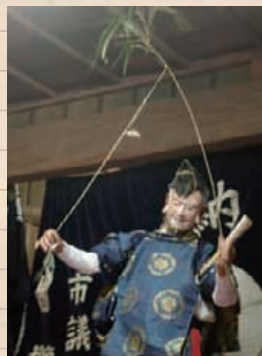
市内で唯一演じられている「神功皇后」の舞

はさまちょうおおみや 飯山満町大宮神社の神楽

飯山満町大宮神社の神楽は、農業が盛んだった飯山満の地で五穀豊穡を願い、豊作に感謝して伝えられてきた神楽です。この神楽を伝えているのは、氏子からなる大宮神社神楽楽人の方たちです。

現在演じられている神楽は、①みこ舞、②天狗(猿田彦)、③八幡太郎(知のり)、④うすめ、⑤こかじ(住吉舞)、⑥翁、⑦神明(種蒔き)、⑧きつね(天狐)、⑨神功皇后、⑩ひょっとこ、⑪いびす様(蛭子)、⑫鬼・鐘馗(山神)、の12座。このうち⑨神功皇后は、市内では飯山満町大宮神社でしか演じられていない曲目です。使用する楽器と演奏者の人数は、大太鼓(鉦打太鼓)1人、小太鼓(締太鼓)1人、笛3人の計5人になります。

神楽の始められた年代ははっきりわかりませんが、保存されている装束などへの墨書きから、江戸時代末期にはすでに演じられていたとみられています。



所 船橋市飯山満町2-843

時 17:00～

☎ 047-436-2898
(船橋市教育委員会 文化課)

交 東葉高速鉄道 飯山満駅から
徒歩10分

指 平成7年6月26日

→近隣で見られる文化財

- ① 八十八ヶ所札所大絵馬(能満寺)……………P60
- ② 木造地藏菩薩坐像(ゆるぎ地藏)……………P62



◀「いびす様(蛭子)」では、いびす様が釣りを
する様子がひょうきんに演じられる

▶市内では飯山満町大宮神社でしか
演じられていない「神功皇后」



船橋 話

船橋の秋を見つけにいこう

市内の銘木、紅葉

市内の神社の多くには紅葉樹が植えられていて、シーズンには鮮やかな紅葉を楽しむことができます。代表的なところとしては、船橋名木10選に選ばれている「二宮神社のイチョウ」「道祖神社のイチョウ」「葛羅井のケヤキ」などが挙げられます。市内北部に位置する「船橋県民の森」も紅葉が楽しめるスポットです。15haの自然そのままの姿を残す森のなかにはモミジなどが生き茂り、11月下旬～12月上旬くらいまで美しい紅葉を見ることができます。



▲「道祖神社のイチョウ」 東船橋駅から徒歩5分ほどの場所にある道祖神社のイチョウ。名木10選の一本



▲「葛羅井のケヤキ」 名木10選の一本。道ばたにどっしりと立っている



▲「二宮神社のイチョウ」 雌木で幹回りは約4.7m、高さは約25mある。船橋市の名木10選の一本



◀「二宮神社」境内への道には広葉樹があり、紅葉シーズンにはきれいな色に染まる

【船橋名木10選】

1	熊野神社のタブノキ	古作3丁目
2	俱梨迦羅不動尊のエノキ	飯山満町3丁目
3	王子神社のケヤキ	八木が谷5丁目
4	葛羅井のケヤキ	西船6丁目
5	神明神社のクロマツ	飯山満町1丁目
6	葛羅神社のクロマツ	西船5丁目
7	二宮神社のイチョウ	三山5丁目
8	道祖神社のイチョウ	東船橋1丁目
9	光明寺のヤブヅルノキ	印内2丁目
10	大野家のスダジイ	金杉2丁目

※神明神社のクロマツは平成5年の落雷により伐採されている

市内の紅葉スポット



船橋を代表する初詣スポットの船橋大神宮。毎年多くの方が参拝に訪れます。元日には境内の神楽殿で神楽が奉納されるほか、県指定文化財の「灯明台」も一般公開され、灯明台内部を見学することができます

冬

神楽、オビシャ、初ばやしなど

一年でもっとも多くの行事が行われる季節

旧暦 11月 13日 大火揚

12月 酉の日 酉の市 / 船橋大神宮の神楽 (船橋大神宮の神楽は二の酉のみ)

1月
1日 正延寺 木造五智如来坐像御開帳
1日・3日 船橋大神宮の神楽
1日 高根町神明社の神楽
7日 飯山満町大宮神社の神楽
7日 田喜野井、三山のオビシャ
初旬 出初式 / 梯子乗りと木遣り歌

上旬 灯明台祭
11日・20日 古和釜のオビシャ
14日 筒粥神事
15日 二宮神社の神楽
17日 金堀の初ばやし
23日 楠が山の辻切り

2月
3日 節分祭 (船橋大神宮の神楽)
3日 節分祭 (二宮神社の神楽)

初午 中野木の辻切り
28日 大仏追善供養

P81・D-4 三山／二宮神社 見学自由

旧暦
11月13日

冬の夜に灯る かがり火

おお び よ

大火揚

旧暦の11月13日に二宮神社で行われている大火揚。平安時代、藤原師経が都から当地に流されてきたときに、里人たちがかがり火を焚いて迎えたことに由来しているといえます。拝殿で神主による式典執行が行われたのち、わらを燃やしてかがり火とします。(師経にまつわる二宮神社の行事には「お舟流し」(P13)もあります)



▶防火安全のため、燃やすわらはは2〜3束



薬田台・三山エリア

所 船橋市三山5-20-1 (二宮神社)

時 18:00〜

☎ 047-436-2898

(船橋市教育委員会 文化課)

交 JR津田沼駅北口から二宮神社行きバスで終点下車

船橋
ばなし
話

文化財を次世代にも残すために

文化財防火デー

毎年1月26日は、「文化財防火デー」です。昭和24年(1949)1月26日に法隆寺金堂壁画を焼損したことに基づいています。この日を中心に文化財を火災・震災などの災害から守るため、文化財防火運動(消防訓練・立入検査・防火指導)が行われています。

文化財は共有の財産です。防火・防災の意識を高めて、次の世代にも残せるようにしたいですね。



▶消防訓練では放水も行われる

P79・C-3 宮本／船橋大神宮

市指定無形民俗文化財(神楽)

見学自由

12月
の酉

神楽の囃子が酉の市の夜に響く

酉の市／船橋大神宮の神楽

船橋駅周辺エリア



11月の酉の日に開催されることの多い酉の市ですが、船橋大神宮境内では12月の酉の日に市がたちます。この日は船橋大神宮境内にある、大鳥神社の祭礼です。参道には縁起物の熊手を売る屋台が並び、お客が熊手を購入すると手締めを行います。商売繁盛のご利益から、商売をしている方が買っていられることが多いようです。

酉の市は、一の酉、二の酉の2日行われますが、二の酉では境内の神楽殿で神楽が奉納されます。神楽を伝えているのは、船橋大神宮楽部の方たちです。普段は日中に行われている船橋大神宮の神楽ですが、この酉の市で奉納される時だけ、夜見ることができます。



神楽は19時〜20時くらいまで舞われる

所 船橋市宮本5-2-1 時 19:00～(神楽)

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 京成電鉄 大神宮下駅から徒歩3分

指 平成7年6月26日

➡ 近隣で見られる文化財

① 灯明台 (船橋大神宮)P43

② 鐘桜堂跡 附 和時計 蜀山人筆 (了源寺)P50

P80・B-3 西船／正延寺

県指定有形文化財(彫刻)

毎年元日のみ見学可能

1月1日

元日にだけ御開帳される秘仏

しょうえん じ もく ぞう ご ち にょらい ざ ぞう ご かいちょう

正延寺 木造五智如来坐像 御開帳

正延寺は明治41年(1908)に大日山浅間院正覚寺と深堀山地蔵寺延命院が合併して成立した寺院で、寺は延命院の跡に建てられています。木造五智如来坐像は正覚寺に安置されていたもので、秘仏ですが毎年元日に御開帳されています。

五智如来坐像の中央に位置する大日如来は、太陽の光をさらに上回る智慧の光明をもつ仏という意味で、密教では最高至上の絶対的な存在と考えられています。密教の中心経典である「大日経」「金剛頂経」の教主であり、それぞれを図示した胎蔵界・金剛界曼荼羅の主尊です。5つの「智」を表す五智如来は胎蔵界・金剛界の両部にあり、どちらも大日如来とほかの4如来の五仏で構成されていますが、大日如来の結ぶ印相と4如来の構成がそれぞれで異なります。

正延寺の五智如来像は、中尊が胎蔵界大日如来であること、4如来像のうちの1体が開敷華王如来とみられていることから、胎蔵界五智如来と判定されました。材質や構造、作風から、もともと胎蔵界五仏として一具同時に作られたものとみられています。

所 船橋市西船3-3-4

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会文化課)

交 京成電鉄 京成西船駅から徒歩1分

指 平成5年2月26日

→近隣で見られる文化財

① 葛羅の井……………P53

② 成瀬氏の墓 附 墓誌(宝成寺)……………P54

▼左から、無量寿如来、開敷華王如来、大日如来、宝幢如来、天鼓雷音如来



西船橋エリア

P79・C-3 宮本／船橋大神宮

市指定無形民俗文化財

見学自由

1月1日・3日

初詣と共に神楽を見られる

船橋大神宮の神楽

船橋駅周辺エリア

初詣でにぎわう船橋大神宮では、元日と3日の祈禱祭で神楽が奉納されます。元日は11時頃から、3日は11時30分頃から始まります。

船橋大神宮に伝えられている神楽は、①みこ舞、②猿田舞、③翁舞、④知乃里舞、⑤天狐舞、⑥田の神舞、⑦蛭子舞、⑧恵比寿大黒舞、⑨笹舞、⑩山神舞、の計

10座。このうち、7、8座ほどが当日に舞われます。使用される楽器は、舞楽に用いる楽太鼓と、締太鼓、笛の3種で、それぞれ一人ずつ、3人で演奏します。

現在、船橋大神宮で演じられている神楽の由来はよくわかっていませんが、曲目の構成から「十二座神楽」の系統だと考えられています。



▲初詣の参拝者の列は外の歩道まで続く

蛭子舞のように海に関係の深い曲目が大切にされていることも、船橋が江戸湾に臨んでよい漁場をひかえた土地であったことに関連した特色と言えます。



▲元日と3日の祈禱祭で演じられる神楽

所 船橋市宮本5-2-1

時 1月1日/11:00～ 1月3日/11:30～

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会文化課)

交 京成電鉄 大神宮下駅から徒歩3分

指 平成7年6月26日

→近隣で見られる文化財

①西福寺石造五輪塔・西福寺石造宝篋印塔(西福寺)・・・P42

②灯明台(船橋大神宮)・・・・・・・・・・・・・・P43



P82・B-2 高根町／高根町神明社

市指定無形民俗文化財 見学自由

1月1日

元日朝の神楽、午後には大神宮に奉納も

たか ね ちょう しん めい しゃ か ぐら

高根町神明社の神楽

▶鬼(写真左)に奪われた玉を大山祇命(同中央)が取り返し、姫(同右)にささげる玉取り之舞



飯山満町・高根町エリア

高根町神明社では、1月1日、5月1日、10月15日の年3回、神楽を奉納しています。普段は夜に演じられる高根町神明社の神楽ですが、元日だけは昼間に見ることができます。

見つかった「歴代神楽連名簿」の記録によると、最初の奉納は明治6年(1873)。明治時代の初めに現在の柏市風早(旧沼南町)の塚崎神明社より習ったと伝えられています。

現在演じられている神楽は、「^{みこ}神子舞」や「^{たま}玉取り^の之舞」など計14座です。使用する楽器は大胴(鉦打太鼓)、台拍子(締太鼓)、笛。大胴と台拍子はそれぞれ1人、笛は3人で、計3種5人での演奏になります。

午後(14時頃～)には船橋大神宮にも奉納され、大神宮の神楽殿で見ることができます。

所 船橋市高根町600 時 9:00～(※大神宮では14:00～)

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 JR船橋駅北口からグリーンハイツ行きバスで「高根小学校前」下車、徒歩15分

指 平成7年6月26日

➡近隣で見られる文化財

①八十八ヶ所札所大絵馬(観行院)……P61

②東葉高等学校正門……………P63



▲神子舞は市内でここだけ面をつけて舞う



P83・C-3 飯山満町／飯山満町大宮神社

市指定無形民俗文化財 見学自由

1
月
7
日

五穀豊穡を願う神楽

は さ ま ち ょ う お お み や じ ん じ ゃ か ぐ ら
飯山満町大宮神社の神楽

飯山満町・高根町エリア

▶天狗(猿田彦)



飯山満町大宮神社の神楽は、1月7日の七草と10月23日の例祭で、それぞれ夜に奉納されます。

飯山満町大宮神社の神楽が始まった年代ははっきりわかりませんが、谷津の本郷(習志野市)から伝わったという伝承があります。その後、一時期途絶えていましたが、村に不幸があった際に再度谷津から習って復活したといわれています。

市内のほかの神楽と同様、古い面や装束が大切に保管されていますが、そのなかに「文久三癸亥年(1863)九月吉日奉納 近藤四郎左衛門」と墨書された大黒の頭巾などがあり、江戸時代末期にはすでに演じられていたようです。



▲神楽は20時頃まで行われる。防寒対策をして見に行きたい

所 船橋市飯山満町2-843 時 17:00～

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 東葉高速鉄道 飯山満駅から徒歩10分

指 平成7年6月26日

➡近隣で見られる文化財

①木造地藏菩薩坐像(ゆるぎ地藏)……P62

②東葉高等学校正門……………P63



1
月
初
旬

江戸の火消の妙技を出初式で見る

で ぞめ しき はし ご の き や うた
出初式／梯子乗りと木遣り歌

出初式は消防関係者によって1月初旬に行われる仕事始めの行事です。隊員の表彰などが行われる式典のあとには、市指定無形民俗文化財の梯子乗りと木遣り歌の実演、消防音楽隊によるマーチングドリル、消防局・消防団による一斉放水などが行われます。

梯子乗りは船橋^{とびしよく}鳶^{わかとびかい}職組合若鳶会の人たちによって伝承され、高さ3間半(約6.3m)の梯子の上で、トオミ・セガメ・キモツブシなどの妙技が披露されます。



▲消防局員・消防団員が並ぶ、出初式



▶梯子乗りのあとには木遣り歌も唄われる

■江戸の消防組織“火消”

江戸時代初期には火消の制度が定められておらず、度重なる大火を契機にまず武家火消が制度化されました。江戸時代中期の享保の改革によって町火消が制度化され、やがて町火消が江戸の消防活動の中核を担うようになりました。

これら消防組織は、明治維新後に廃止・改編されますが、それが現代の消防署・消防団へと繋がっています。

▲高さ3間半(約6.3m)の梯子の上で行われる梯子乗り



所 船橋市習志野台7-5-1

時 9:30～(梯子乗りは11:00頃～)

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 東葉高速鉄道 船橋日大前駅より徒歩8分

指 昭和44年4月17日(梯子乗りと木遣り歌)

→近隣で見られる文化財

●坪井周辺……P70、71(文化財をめぐるお散歩マップ)

P79・C-3 宮本／船橋大神宮 見学自由

1
月

新成人が灯明台にあかりを灯す

とう みょう だい さい

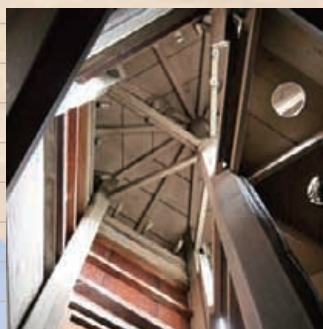
灯明台祭

船橋駅周辺エリア

昭和37年(1962)に県有形民俗文化財に指定された船橋大神宮の灯明台。この灯明台に年に一度あかりが灯るのが、毎年1月に行われている灯明台祭です。新成人が順にスイッチを入れ、全員が入れ終わると灯明台にあかりが灯ります。

また、1月1日～3日の3日間、普段は一般公開されていない灯明台内部が公開され、誰でも見学することができます。灯明台は3階建てで、1・2階は点火や見回りをする管理人の宿舎として使われていたとみられる和室、3階の灯室は西洋式灯台のデザインを取り入れた六角形のつくりになっています。

あかりの灯った灯明台(県指定有形民俗文化財)



▲新成人が順にスイッチを押す。
全員が押し終わるとあかりが灯る

▲灯明台の内部。
1月1日～3日の
間は一般公開
される

所 船橋市宮本5-2-1 時 17:00～

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

🚶 京成電鉄 大神宮下駅から徒歩3分

➡ 近隣で見られる文化財

① 西福寺石造五輪塔・西福寺石造宝篋印塔(西福寺)・・・P42

② 鐘楼堂跡 附 和時計 蜀山人筆(了源寺)・・・P50



P81-C-4 田喜野井／子神社 P81-D-4 三山／二宮神社 P85-C-4 古和釜町／八王子神社 P84-A-2 八木が谷／王子神社 (見学自由)

1月7日ほか

厄を射て！ 年頭に行う弓射ち行事

オビシャ

オビシャは年頭に行う弓射ち、または輪番のヤドによる神の受け渡しの行事が中心で、「お歩射」「お奉謝」「お備社」などの字を当てます。弓射ちを行うオビシャは市内では三山、田喜野井、古和釜、八木が谷の4ヶ所で、的の中央には“鬼”“虫”などの文字を記します。“鬼”は悪疫・悪魔など邪悪なもの、“虫”は田畑の害虫などを指し、それらを射抜くことでムラの平和と作物の豊作を祈願しています。

的の文字や射手は地域によって異なり、三山では的に文字はなく、田喜野井・古和釜では“鬼”、八木が谷では的の中心に“虫”、上下左右に“東西南北”と書かれています。また、古和釜では射手を子供(7歳未満の男子)が務めます。



▲古和釜のオビシャの射手は子供が担当
田喜野井のオビシャの的には、鬼と書かれている



▼三山のオビシャの弓は手作りされたもの

1月7日〈田喜野井のオビシャ(子神社)〉

所 船橋市田喜野井3-16-3 時 1月7日10:00～
交 JR津田沼駅北口から二宮神社行きバスで「旭ヶ丘」下車、徒歩8分

1月7日〈三山のオビシャ(二宮神社)〉

所 船橋市三山5-20-1 時 1月7日15:00頃～
交 JR津田沼駅北口から二宮神社行きバスで終点下車

1月11日・20日

〈古和釜のオビシャ(八王子神社)〉

所 船橋市古和釜町161 時 1月11日11:00～
交 JR船橋駅または新京成電鉄 北習志野駅からバスで「古和釜十字路」下車、徒歩8分

3月3日〈八木が谷のオビシャ(王子神社)〉

所 船橋市八木が谷5-1
交 JR船橋駅からバスで「三咲神社前」下車、徒歩18分
【地図はP76～のエリア地図参照】



北部エリア
薬円台・三山エリア

P81・D-4 三山／二宮神社 市指定無形民俗文化財(神楽) 見学自由(神楽)

1月14日・15日

今年の作物の出来柄を占う

筒粥神事／二宮神社の神楽

薬円台・三山エリア

筒粥神事は三山の二宮神社で1月14日に行われる、鉄鍋につくった粥にヨシ筒を入れ、翌日に筒を割って今年の作物の出来柄を占う行事です。



筒粥神事は残念ながら公開されていない

14日の夕方に定められた三軒の家と氏子総代が二宮神社に集まり、神事の式典が執り行われた後、湯のたぎった鍋に米粉を入れ、栗の箸でかき混ぜます。その後、三本と四本につないだヨシ筒を粥の中に入れ、よくかき混ぜた後にヨシ筒を粥から取り出し、椀に受けて神前に供え、祝詞を奏上して終了になります。翌朝、神主が筒を割って今年の作物の出来柄を見て、その結果を申告として拝殿の柱に貼ります。

15日の春の例祭では神楽も奉納されます。二宮神社の神楽は、神事の厳粛さと祭礼における娯楽性を合わせた神楽で、ひりこ舞ではタコが出てきて観客を笑わせたり、最後に行われる餅まきではたくさんの餅がまかれます。



15日に演じられる神楽



所 船橋市三山5-20-1
時 13:00～(神楽)
☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会文化課)
交 JR津田沼駅北口から二宮神社行き
バスで終点下車
指 平成7年6月26日
📍 近隣で見られる文化財
① 斎藤その女等奉納句額(二宮神社)・・・P56
② 二宮神社社殿(二宮神社)・・・P57

P85・C-3 金堀町／日枝神社より **見学自由**

1月17日 地域に伝わる悪魔祓い かね ほり はつ 金堀の初ばやし

初ばやしと聞くと、笛・鉦・太鼓などで演奏する「囃子」を連想しますが、船橋市内では囃子を伴わない悪魔祓い、疫病除けを主眼とする行事が主です。金堀の初ばやしもこうした初ばやしの一つで、少年たちが神輿を担いで集落を回り、各家の玄関先

でかけ声をかけながら悪魔祓いをします。

▶60軒ほどの家を回って悪魔祓いをする



所 船橋市金堀町471
(日枝神社より)
時 17:00～
☎ 047-436-2898
(船橋市教育委員会 文化課)
交 JR船橋駅北口より豊富農協前行きバスで「金堀」下車、徒歩1分

西部
船橋エリア
北部
エリア

P80・B-2 印内／八坂神社より **見学自由**

1月23日 三匹の獅子が駆け巡る厄除け行事 はる 春ギトウ

春ギトウ(ムラゲト)は、年の初めに神様(御神体)や曼荼羅の掛軸をもって各家を回り、悪霊退散・家内安全を祈禱する行事で、印内では三匹の獅子などが定められたコースに従い家々を回ります。獅子は門口で「オーッ」とかけ声をあげ、家の中を駆け巡って厄払いします。獅子のあと、玄関先で剣をもった二人が「祓いたまえ、清めたまえ、家内安全八坂の大神」と唱え、更に神主、御神体が家人をお祓いします。

所 船橋市印内2-7-8
(八坂神社より)
時 15:30～
☎ 047-436-2898
(船橋市教育委員会 文化課)
交 京成電鉄 京成西船駅より徒歩19分



▲獅子をもって各家を回る様子

P81・D-4 三山/二宮神社

P79・C-3 宮本/船橋大神宮

市指定無形民俗文化財(神楽) 見学自由

2月3日

節分祭でしか見られない招福追儼の神楽

せつ ぶん さい

節分祭(船橋大神宮の神楽/二宮神社の神楽)

船橋駅周辺エリア
薬円台・三山エリア

二宮神社の節分祭。「獅子舞」が舞われているところ

節分はもともと各季節の始まりの日(立春・立夏・立秋・立冬)の前日のことを指し、「季節を分ける」ことも意味しているといわれます。江戸時代以降は特に立春の前日を指す場合が多くなりました。

船橋市内の寺社でもそれぞれ節分祭が行われます。船橋大神宮では豆まきと神楽の奉納(4座)が1日2回行われ、境内はにぎわい、奉納される神楽で「恵比寿大黒舞」は、節分祭でのみ演じられます。

船橋大神宮の節分祭では、神楽が2回奉納される



三山の二宮神社の節分祭でしか演じられない神楽(大黒舞、獅子舞、鬼の舞)が社殿で演じられ、鬼の舞のあとには参拝者たちが拝殿から屋外へ逃げ出る鬼に豆を投げつけます。

〈船橋大神宮〉

所 船橋市宮本5-2-1 時 12:00～、16:00～(共に神楽)

☎ 047-436-2898(船橋市教育委員会文化課)

交 京成電鉄 大神宮下駅から徒歩3分 指 平成7年6月26日

〈二宮神社〉

所 船橋市三山5-20-1 時 14:00～(神楽)

☎ 047-436-2898(船橋市教育委員会文化課)

交 JR津田沼駅北口から二宮神社行きバスで終点下車

指 平成7年6月26日



P82・B-4 中野木／八坂神社

市指定無形民俗文化財 見学自由

2
月
初
午

悪霊や悪疫を防ぐ

中野木の辻切り

「辻切り」とは、「辻」(村境)を「切る」ことで、悪霊や悪疫が村内に入っ
てこないようにする行事です。地域によって名称や形態、時期などが変わら
ますが、中野木では毎年^{はつうま}初午(2月最初の^{うま}午の日)に、藁で
つくった大蛇を木にかけます。

行事に参加するのは中野
木の農家、旧農家の方たち。
東西2組に分かれ、東が雌、
西が雄^{おす}の大蛇を1匹ずつ、八
坂神社^{さかじんじや}で製作します。完成し
た大蛇は全長5m半ほどになり
ます。

大蛇にお神酒^{みき}を呑ませるな
どの決まりごとを行った後、前
年の大蛇を木から取り除き、
新たな大蛇を巻きつけて固定します。

起源についてはよくわかっていませんが、
中野木の辻切りは藁の大蛇が大きく、古くか
らのかたちを伝えているといわれています。

市内では中野木のほかに、楠が山、鈴身、
宮本(宮之内)などでも行われており、藁蛇を
作る所(中野木、楠が山)、ワラを輪にして
使う所(鈴身、宮本宮之内)など、その形
や方法はさまざまです。



飯山満町・高根町エリア

▲東組の大蛇(雌)
▶西組の大蛇(雄)



所 船橋市中野木1-12-1 (八坂神社)

時 13:00～

☎ 047-436-2898

(船橋市教育委員会 文化課)

交 JR東船橋駅・津田沼駅から徒歩15分

指 平成9年4月24日

➡近隣で見られる文化財

①八十八ヶ所札所大絵馬(能満寺)・・・P60

②東葉高等学校正門……………P63



P78・B-3 本町／不動院

市指定無形民俗文化財

見学自由

2月
28日

大仏に白米の飯を盛り上げ、供養する

だい ぶつ つい ぜん く よう
大仏追善供養

船橋駅周辺エリア

文政8年(1825)からおよそ200年、毎年同じ日に行われている「大仏追善供養」。供養が行われるのは本町3丁目の不動院にある石造釈迦如来像で、この像は、延享3年(1746)8月1日の津波によって溺死してしまった漁師、住民の供養のために建てられたものです。

大仏追善供養が文政年間から行われるようになったのは、文政7年(1824)に船橋村と猫実村(現在の浦安市)が専漁場の境界をめぐる係争中、猫実村と東宇喜田村(江戸川区)の漁船多数が一橋家(御三卿家)の幟を立てた船の指揮のもと、境界内に侵入してきました。船橋の漁師がこれを妨げようとして激突し、このとき船橋の漁師が一橋家の幟を奪って同乗していた侍を殴打したため、漁師総代3人が入牢させられ、うち2名が亡くなりました。以来漁師一同が1日休漁し、先の津波の溺死者の霊とともに供養を行うことになりました。供養の日には、釈迦如来に白米の飯を盛り上げるようにつけます(写真参照)。これは牢内で食が乏しかったことを償うためといわれています。

このような行事は全国的にも珍しく、船橋の漁師町の歴史を示すものです。



所 船橋市本町3-4-6(不動院)

時 10:00～

☎ 047-436-2898

(船橋市教育委員会 文化課)

交 JR船橋駅、京成電鉄 京成船橋駅から徒歩10分

指 昭和47年12月21日

➡近隣で見られる文化財

①明治天皇船橋行在所……P46

②難陀龍王堂……………P47



◀白米の飯を盛り上げた釈迦如来



船橋に残る 有形文化財

中世の石塔や近世の古文書や建造物、あるいは仏像や史跡
など色々な文化財が市内各所に点在しています

このページでは船橋の歴史を現代に伝え、見学することが
できる貴重な有形文化財をご紹介します



P79・C-3 宮本／西福寺

県指定有形文化財(建造物)

見学自由

中世の大型石塔

西福寺石造五輪塔・西福寺石造宝篋印塔

船橋駅周辺エリア

昭和42年に県の有形文化財に指定された「西福寺石造五輪塔」と「西福寺石造宝篋印塔」。この五輪塔、宝篋印塔は共に供養塔・墓塔として造られるようになった塔の一種です。

西福寺石造五輪塔は、銘文は刻まれていませんが、鎌倉時代後期頃の製作と推定されています(近年の研究では南北朝時代の製作とする説もある)。総高は295cmで安山岩製、中世の五輪塔のなかでは大型のものです。

宝篋印塔は中国から平安時代中期に伝来し、中に「宝篋印陀羅尼經」という経典を収めた塔であることからそう呼ばれています。西福寺石造宝篋印塔は安山岩製で、格狭間のある下の基礎から露盤までの高さは約154cm、こちらも中世のものとしては大型の塔です。

この両塔には御殿地(今の本町4丁目)から移したという伝承があり、移築の年代は船橋御殿が作られた江戸時代初期の可能性が高いといわれています。



▲上から空輪、風輪、火輪、水輪、地輪を表わす

◀ 石造五輪塔の隣にある「西福寺石造宝篋印塔」



所 船橋市宮本6-16-1 ☎ 047-436-2898(船橋市教育委員会 文化課)

交 JR船橋駅から徒歩15分、京成電鉄 大神宮下駅から徒歩5分

指 昭和42年12月22日

P79・C-3 宮本／船橋大神宮 県指定有形民俗文化財 見学の際は要事前連絡

地元有志の寄付金で建てられた政府公認の私設灯台

とう みょう だい

灯明台

お お ひ じん じゃ
意富比神社（船橋大神宮）

は古い由緒を誇る船橋市域最大の神社で、古来、特に海運業者や漁師町の漁業者の信仰を集めてきました。かつて大神宮境内には常夜灯があり、船橋沿岸を航海する船もそれを目印にしていたのですが、慶応4年（1868）の戊辰戦争の際に、社殿と共に焼失してしまいました。その後、地元有志の寄付金によってつくられたのが、この灯明台です。明治13年（1880）に完成し、明治28年（1895）に廃止されるまで、政府公認の私設灯台でした。

灯明台は擬洋風建築で、1・2階は和風、3階の灯室は西洋式灯台のデザインを取り入れた六角形のつくりになっています。

もともと浅間神社のあった場所に建てられたので「浅間山灯明台」と呼ばれた



船橋駅周辺エリア



◀ 灯明台の2階

▼ 灯明台の1階



所 船橋市宮本5-2-1

☎ 047-436-2898

（船橋市教育委員会 文化課）

交 京成電鉄 大神宮下駅から徒歩3分

指 昭和37年5月1日

※平成18年2月「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」（水産庁主催）に認定

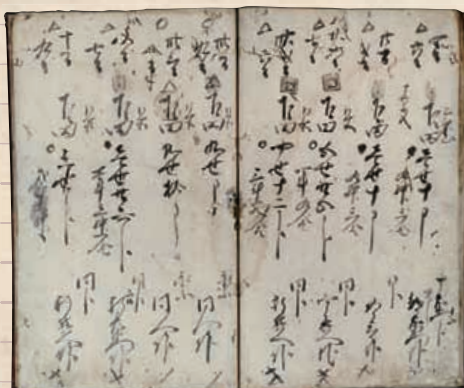
P78・B-3 本町／中央図書館 県指定有形文化財(古文書) 館内PCで閲覧可能

安土桃山時代の貴重な検地帳

てん しょう けん ち ちょう

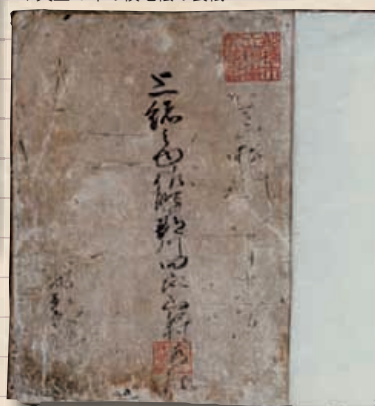
天正検地帳

船橋駅周辺エリア



◀写真の検地帳は現在の市原市に属する山口村の検地帳

▼天正19年の検地帳の表紙



検地とは、領主が支配域の耕地や屋敷地などを測量し、土地の等級・面積・生産基準高と所有者を定めることです。検地によって村の範囲が確定し、総面積・村高が決められ、それに基づいて租税(年貢)が賦課されます。

戦国大名や織田信長も部分的な検地は行いましたが、全国的な規模で徹底された方式によって行われたのは、豊臣秀吉が天正10年(1582)から実施した『太閤検地』です。これによって租税の体系と農村の支配体制が確立したといえます。

船橋を含む両総地方の検地は、天正18年(1590)に関東に移封された徳川家康によって天正19年(1591)に着手され、文禄年間(1592～1596)から慶長年間(1596～1615)まで行われました。このうち、慶長3年(1598)までのものは広義の太閤検地に含まれます。

両総地方に残る安土桃山時代の検地帳のうち天正年間の原本は非常に少なく、県内の天正検地帳の原本17件(64冊)は、当時の土地の状況、農民や耕作の実態を知る重要な資料として、一括して県の文化財に指定されました。

所 船橋市本町4-38-28 ☎ 047-460-1311 (船橋市中央図書館)

交 JR船橋駅、京成電鉄 京成船橋駅から徒歩5分 指 昭和57年4月6日
【地図は右ページ参照】

P78・B-3 本町／中央図書館 市指定有形文化財(古文書) 館内PCで閲覧可能

内湾漁業史に関する貴重な史料

ふな ばし うら ぎょ ぎょう かん けい こ もん じょ るい 船橋浦漁業関係古文書類

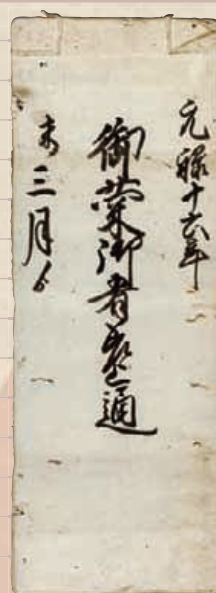


▲「船橋漁浦記事」



◀ 船橋市から羽田(大田区)までの東京湾とその周辺が描かれた「船橋・羽田間彩色浦絵図」

▶「御菜御肴差上通」



船橋駅周辺エリア

船橋浦は近世以後、内湾の代表的な漁業地帯でした。一般に江戸時代前期から漁業中心の生活をしていたところは“本浦(立浦)”と呼ばれますが、船橋は本浦で、さらに“御菜浦”^{おさいのうら}でした。御菜浦とは将軍家の台所に魚介類を納める浦のことです。芝浦や品川浦などの御菜ハケ浦が有名でしたが、船橋浦も江戸時代前期には月に6度ずつ魚類を献上していました。船橋浦が御菜浦になったのは、徳川家康から仰せつかったためといわれています。そのため、船橋漁師は魚介献上の御用をつとめる代わりに、広大な漁場を占有することを許されていました。

その後、後発の半農漁村が活発に漁をし出す江戸中期になると、境界近くでは漁場争いが頻繁に起こるようになりました。争いの裁決は代官所や評定所で行われたため、多くの訴状や協定書が作成されました。これらの書類は最も重要であったことから大切に保管され、後世に伝えられました。



所 船橋市本町4-38-28 ☎ 047-460-1311 (船橋市中央図書館)

突 JR船橋駅、京成電鉄 京成船橋駅から徒歩5分 指 昭和47年12月21日

中央図書館

P78・B-3 本町／千葉銀行船橋支店 県指定史跡 見学自由

明治天皇最初のご来県時のご休憩の地

めい じ てん のう ふな ばし あん ざい しょ

明治天皇船橋行在所

船橋駅周辺エリア



◀千葉銀行船橋支店の前にある明治天皇船橋行在所の碑

千葉銀行船橋支店の入口前にある石碑は、明治天皇がご来県した際にこの地に立ち寄られたことを今に伝えています。

明治天皇は明治6年(1873)から明治45年(1912)までに計10回、のべ35日間にわたって千葉県に滞在されました。最初のご来県の明治6年4月29日に昼食をとられたのが、当時の船橋町九日市の旅館業桜屋、山口丈吉宅です。

同家は、明治天皇が千葉県で初めて民間に宿泊された家で、その後もしばしばご利用になり、通算で宿泊10回、昼食5回、小休息2回と千葉県では最も多く立ち寄られています。



▶山口丈吉宅の玉座(明治天皇御遺跡より)



所 船橋市本町3-3-4

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 JR船橋駅から徒歩10分、京成電鉄 京成船橋駅から徒歩8分

指 昭和9年12月18日

P78・B-3 本町／覚王寺 市指定有形文化財(建造物) 見学自由

漁師町の信仰を集めた“龍神様”のお堂

難陀龍王堂

覚王寺は開創が室町時代後期といわれる真言宗豊山派に属する寺院です。江戸時代の寛文(1661～1673)、元禄(1688～1704)の頃から興隆したといわれ、10ヶ寺の末寺を有していました。

この覚王寺にある文化財が市指定有形文化財(建造物)の「難陀龍王堂」です。現在の堂は嘉永3年(1850)に再建されたもので、棟札が残されています。

龍王堂の本尊である難陀龍王は海上守護の神です。經典には「善く人心に応じ風雨を調え人をして歓喜せしむ」と説かれ、昔から“龍神様”として船橋の漁師町の人々の信仰を集めてきました。覚王寺の年中行事記によれば、毎年4月3日に海上保全・豊漁祈願のための難陀龍王御摩供が修され、護符が配られたといいます。

龍王堂は総檜造、形式は一間社流造で、堂全体を覆う彫刻が特徴的です。

正面には龍、北・東・西には中国の故事にちなんだ仙人や仙女が彫られています。これらの彫刻は彫りが深く、立体感があり、彫刻師の卓越した技量がうかがえます。



▲龍王堂の正面



▲北側の鯉にまたがる仙人像



◀正面に彫られた龍の彫刻

所 船橋市本町3-24-6

☎ 047-436-2898(船橋市教育委員会文化課)

📍 JR船橋駅から徒歩10分 指 平成7年3月28日



P78・A-3 海神／念仏堂

市指定有形文化財（彫刻）

見学の際は要事前連絡

端麗優美な定朝様の仏像

もく ぞう あ み だ によ らい りゅう ぞう

木造阿弥陀如来立像

船橋駅周辺エリア

海神の念仏堂内に安置されている「木造阿弥陀如来立像」^{よせ ぎ づくり}。寄木造で、
像高70cm、台座の高さ55cm、光背は舟形で高さは110cmです。

作風は端麗優美な定朝様。平安時代末期前後の作とみられていて、美術的にも優れた仏像です。光背と蓮華座は江戸時代のものに変えられています。

念仏堂の縁起によると、この仏像は海神に存在した天摩山善光寺^{てん ま ざん ぜん こう じ}という古寺にあったもので、寺が火災にあい、小金（現在の松戸市）の東漸寺に預けたものを江戸神田の高麗屋佐次右衛門が請い受け、念仏堂に納めたといわれています。

■定朝様の仏像

定朝は平安期中期の仏師。平明で円満な日本化された仏像を完成させ、その作風は定朝様として後世の仏像造りの規範となった。現存する確実な作品は、京都宇治にある平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像のみ。



所 船橋市海神1-17-16 (念仏堂)

☎ 047-436-2898

(船橋市教育委員会 文化課)

交 京成電鉄 海神駅から徒歩10分

指 昭和42年3月20日



◀ 仏像本体は平安時代末期前後の作とみられている

P79・C-3 本町／東照宮 市指定史跡 見学自由

徳川家康と船橋の関係を物語る史跡

ふなばしごてんあと 船橋御殿跡 附 東照宮

徳川家康が造ったとされる御殿の跡が船橋に残っています。家康は鷹狩りを好み、上総東金周辺でも2度狩りを催しました。そのため、東金には立派な御殿が造られ、道すがらにある船橋と中田(千葉市)にも、船橋御殿と御茶屋御殿が造営されました。船橋御殿は慶長19年(1614)前後に建てられ、土塁などの防御機能を備えた殿舎だったと考えられています。

慶長18年(1613)12月、家康は翌正月に上総東金で狩りをすると仰せ出し、正月7日に出発して東金に向かいました。船橋大神宮の諸由緒書によれば8日(7日とする書もある)に船橋御殿で小休止をしたとありますが、ほかにそれを裏付ける史料は知られていません。家康は翌年の元和元年(1615)11月25日にも、東金からのからの帰途に船橋御殿に宿泊しました。女房・警備の武士・足軽など、数十名を従えた一行だったとされています。

御殿の跡地といわれる場所は現在の本町4丁目の一角、民家の立ち並ぶなかにあり、そこには東照宮と稲荷神社の社殿が建てられています。船橋御殿跡と東照宮は、徳川家康と船橋の関係を物語る貴重な史跡です。

所 船橋市本町4-29-12 ☎047-436-2898 (船橋市教育委員会文化課)

交 JR船橋駅、京成電鉄 京成船橋駅から徒歩10分

指 昭和40年3月17日



船橋駅周辺エリア

船橋御殿跡にある東照宮。家康を祀って建てられた

P79・C-3 宮本／了源寺 市指定史跡 見学の際は要事前連絡

時を告げるかねつき堂があった

鐘楼堂跡 附 和時計 蜀山人筆

船橋駅周辺エリア

徳川幕府から「時の鐘」として公許され、明治4年(1871)まで船橋一帯に時を告げていた鐘楼堂跡が宮本の了源寺にあります。

本堂の右後ろには小さな丘があり、享保年間(1716～1736)に幕府が大砲射撃を行った際の鉄砲台の台座があったといわれています。大砲は東方の谷津・藤崎方面の松林、原野に向けて試射されたそうです。

大砲試射を廃止した際、ときの代官小宮山空之進のすすめで鐘楼堂(かねつき堂)を建て、船橋一帯に時を告げました。これは明治4年(1871)に廃止されるまで続けました。この「時」の基準となった和時計も了源寺で大切に保存されています。高さ48cm、幅16cmの真鍮製で、江戸時代中期(18世紀)の作といわれています。

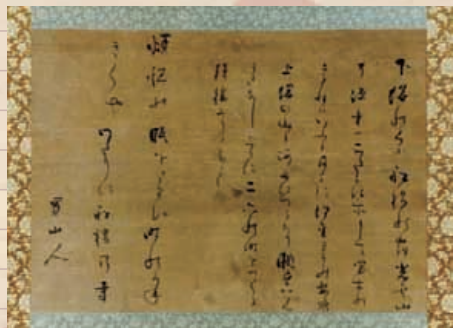
また、了源寺にはこの鐘の音を聞いて詠まれた、蜀山人大田南畝直筆の狂歌も保存されています。



鐘楼堂跡(現在の鐘楼堂は再建)



船橋の時の基準になった和時計



大田南畝
直筆の狂歌



所 船橋市宮本7-7-1 ☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)
交 京成電鉄 大神宮下駅から徒歩10分 指 昭和41年2月22日

P78・A-1 海神／飛ノ台史跡公園博物館 市指定史跡 見学自由(博物館内は有料)

考古学史上初めて「炉穴」が発見された遺跡

とびのだいつか 飛ノ台貝塚



公園として整備されている第3次調査地点

飛ノ台貝塚は、東西に約600m、南北に約60～200mに及び、76,000㎡(東京ドームの約1.6倍)の規模をもつ、縄文時代早期の遺跡です。

昭和7年(1932)に故杉原莊介博士によって発見され、「千葉縣東葛飾郡葛飾町大字西海神字飛ノ臺に存する」ため、「飛の臺貝塚」と名付けられました。昭和13年(1938)に行われた発掘調査では、「残灰を有する凹所群」が

見つかリ、「^{ろあな}炉穴」と命名されました。飛ノ台貝塚は考古学史上、炉穴が初めて発見された遺跡として有名です。その後、昭和52年(1977)から平成23年(2011)までに計11回の発掘調査が行われ、縄文時代早期の住居跡21軒、小竪穴4基、墓坑1基、炉穴430基以上、貝塚40ヶ所以上などの遺構が発見されています。

現在、飛ノ台貝塚の第3次調査地点は公園として整備されており、隣接する船橋市飛ノ台史跡公園博物館では、市内の遺跡から出土した遺物などが展示されています。

所 船橋市海神4-260-1ほか

☎ 047-495-1325(船橋市飛ノ台史跡公園博物館)

交 東武野田線 新船橋駅から徒歩8分、京成電鉄 海神駅から徒歩15分、東葉高速鉄道 東海神駅から徒歩12分

指 平成9年5月16日

▼第3次調査で見つかった平地の遺跡としては日本最古の合葬人骨



船橋駅周辺エリア

P78・B-3 湊町

国登録有形文化財(建造物)

見学の際は要事前連絡

かつての船着場の残る純和風旅館

玉川旅館(本館・第一別館・第二別館)

船橋駅周辺エリア

大正10年(1921)に料亭の営業を始めた「玉川旅館」。屋号の“玉川”は料亭を始めた小川家当主の父、小川紋蔵が船橋大神宮奉納相撲(P22)で名乗っていた四股名から付けられたものです。

本館は2階建てですが、高床式のため一見すると3階建てに見え、外観を楼閣風にまとめた料亭座敷です。

内部の各部屋には次の間が付いていて、かつては陸海軍の高級将校などが好んで使用したといわれています。

第一別館は平屋建てで第二別館と渡り廊下でつながっており、客室の床の間や欄間などには数奇屋風の意匠が見られます。

第二別館は2階建てで、2階の座敷7部屋のうち5部屋の間仕切りを取り払うと97畳敷きの大宴会場になります。1階部分は外観から高床式の基礎のように見えますが、意匠の凝った小部屋が迷路のように配られています。



▲本館。昭和16年(1941)建築の2階建て



▶第一別館。昭和3年(1928)建築の平屋建て



所 船橋市湊町2-6-25
☎ 047-436-2898
 (船橋市教育委員会 文化課)
交 JR船橋駅または京成電鉄
 京成船橋駅から徒歩10分
登 平成20年4月18日



▲第二別館。昭和8年(1933)建築の2階建て

P80・A-2 西船 市指定史跡 見学自由

今なお水を湛える古井戸

葛羅の井



井戸は直径180cmほどの円形をしている

京成西船駅から徒歩8分ほど、民家が立ち並ぶ道から少し入ったところに「葛羅の井」はあります。現在はコンクリートで固められ、水も濁っていますが、水脈が富士山のふもとまで続いている、どんな日照りでも水が枯れないなど、さまざまな伝説が残っている井戸です。

文化9年(1812)には、天明期を代表する文人のおおたなんぼの大田南畝が「葛羅之井」を揮毫し、この井戸を讃え、『下総の勝鹿 郷は栗原に隸す 神は瓊杵を祀る 地は醴泉を出す 豊姫の鑒する所 神龍の淵 大早にも涸れず 湛乎としてこれ円なり 名づけて葛羅と曰う 絶えざること綿綿たり』と詠みました。井戸の隣に立つ石碑にはその句が刻まれています。



▲戦後、散歩中の永井荷風により再発見され、世に知られることになった、葛羅の井の碑

所 船橋市西船6-4-5

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 京成電鉄 京成西船駅から徒歩8分

指 昭和40年3月17日



西船橋エリア

P80・A-2 西船／宝成寺 市指定史跡 見学自由

船橋市唯一の大名関係の墓

成瀬氏の墓 附 墓誌

西船橋エリア

現在の船橋市西部、旧葛飾町一帯はかつて栗原郷といわれ、江戸時代に大名成瀬氏の領地でありました。宝成寺にある成瀬氏の墓所は、市内で唯一の大名関係の墓です。

成瀬正成は徳川家康の側近の一人で、天正18年(1590)に家康が関東に移封されるとすぐに栗原郷に4千石を与えられて大名に列しました。家康の9男義直が尾張徳川家を創設すると付家老として後見役に任ぜられ、元和3年(1617)に尾張犬山城主となりました。正成の死後、之成が栗原藩の2代目となり、その後1歳の之虎が跡を継ぎましたが、之虎も寛永15年(1638)に5歳で夭折したため、栗原藩成瀬家は断絶しました。一方犬山の成瀬家は存続し、明治時代には子爵になり、子孫が犬山城を所有しました。宝成寺は江戸における成瀬家の菩提寺とされていたので、一族の墓の一部が営まれ、明治9年(1876)までの墓碑が残されています。

また、墓地内には、之成とその殉死者3名の墓碑があります。殉死者を副葬した大名の墓は非常に珍しいものです。

所 船橋市西船6-2-30

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 京成本線 京成西船駅から徒歩5分

指 昭和45年5月20日

県内最大級の第7代犬山城主正寿の墓がある
(台石を除いた高さ約3.6m、幅90cm、厚さ40cm余り)



P81・C-3 薬円台／高幢庵 市指定史跡 見学自由

薬円台 高幢庵の開祖の墓

観^{かん}信^{しん}の墓^{はか} 附^{つけたり} 木造^{もくぞう}地蔵^{じぞう}菩薩^{ぼさつ}坐像^{ざぞう}

観信は江戸時代の木食行者^{もくじき}の一人^{ひとり}で、薬円台^{くわうえん}に高幢庵^{きやうぼう}を開き、この地で享保11年(1726)に亡くなりました。ここに墓石と位牌^{ゐはい}があるほかは、観信についての伝記は知られていません。

墓は高さ約130cmの棹石^{しやうせき}で、「開山権大僧都理性院阿闍梨木食観信 享保十一丙午歳七月」と刻まれています。しかし位牌には「権大僧都阿闍梨理性院木食観信不生位 享保十一丙午天八月六日」とあり、没年の月日に違いがみられます。

地蔵菩薩^{ぢざうぼさつ}は一木を荒々しく削って作られた、力強く素朴な作風の像で「木っば地蔵」と呼ばれています。風雨にさらされて露仏^{ろぶつ}となっていたせいか状態は悪いですが、現在は観信の墓の隣の小堂に安置されています。

■「薬園台」の地名の由来

薬園台の地名は、江戸時代八代將軍徳川吉宗の命により、ここ下総国滝台野に薬草園が作られたことに由来している。薬草園は成功に至らなかったが、「薬園台新田」という名が残された。昭和48年(1973)に地名表記が「薬円台」に変更され、現在では薬園台町のほかは、新京成線薬園台駅や千葉県立薬園台高等学校の名称などに旧地名の名残がある。

観信の墓。墓石の
高さは約130cm



▲「木っば地蔵」と呼ばれている
木造地蔵菩薩坐像



所 船橋市薬円台1-1 ☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)
 突 新京成電鉄 薬園台駅から徒歩5分 指 昭和40年3月17日

薬円台・三山エリア

P81・D-4 三山／二宮神社 市指定有形文化財(歴史資料) 見学の際は要事前連絡

江戸時代の三山近在の俳人たちが奉納

齋藤その女等奉納句額

二宮神社の拝殿内正面に掲げられたこの句額は、大穴の齋藤その女、田木ノ井(田喜野井)の歟賀、正伯(薬円台)の林中など、三山近在の俳人たちが主催者になり、選者に江戸の俳人孤山堂卓郎などを迎え、文久3年(1863)に奉納されました。これは江戸の工人野川法眼平朋郷が装飾し、彫刻した立派なものです。その女の名前は、主催者中の最長老として「八十二老その女」と刻まれています。俳句の奉納者は、二宮神社の注連下21ヶ村の村民や2~3人の江戸・市川の者、合わせて80人になります。

なお、その女については墓所(P65)も史跡に指定されています。

(額の句の一部)	○汲てゆく	跡も濁らぬ	清水かな	歟 賀
	○風よりも	涼しき庵よ	もりのうち	林 中
	○春もまだ	冴てなのみぞ	庵の月	その女
	○移る燈の	雨にながるる	柳かな	卓 郎

薬円台・三山エリア



▲句額は天地が107cm、左右が376cm。ケヤキの一枚板でできている

▶平成9年度に修復された句額の一部

所 船橋市三山5-20-1
(二宮神社)
☎ 047-436-2898
(船橋市教育委員会文化課)
交 JR津田沼駅北口から
二宮神社行きバスで
終点下車
指 昭和55年10月23日
【地図は右ページ参照】



P81・D-4 三山／二宮神社 市指定有形文化財(建造物) 見学自由

当時の宮大工の技術がうかがえる、貴重な建築

二宮神社社殿

社殿の平面形式は江戸時代に流行した権現造



薬師台・三山エリア

二宮神社は、社伝によると弘仁年間(810～824)の創立だといわれており、社殿の平面形式は権現造です。神社の棟札や各部の建築様式からも、安永年間(1772～1781)に再建されたものとされています。社殿には本殿、幣殿、拝殿があり、本殿は大正11年(1922)10月に、拝殿は大正14年(1925)8月に、それぞれ茅葺屋根を銅板葺きに葺き替えています。



社殿入口の梁に飾られた彫刻

この神社は正面の鳥居から参拝するのが正しいとされています。正面の鳥居をくぐると、参道はいったん低くなり、谷を横断して進むかたちになります。そして石段をのぼっていくと徐々に拝殿が姿を現し、のぼりきったところではじめて拝殿の全景が見えるようになっています。大工棟梁の社殿の見せ方への工夫が感じられるデザインです。

本殿の全体を飾る彫刻、軒の組物や腰組も、当時の宮大工の高い技術が発揮された意匠、造作となっています。

所 船橋市三山5-20-1

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 JR津田沼駅北口から二宮神社行きバスで終点下車

指 平成4年2月27日



P81・D-2 薬円台／郷土資料館

市指定有形文化財(考古資料)

展示については要確認

全国で二例しかない極めて貴重な考古資料

ずいかそうほうご かきょうばいかもんかがみばこ
瑞花双鳳五花鏡・梅花文鏡筥 (残欠)

薬円台・三山エリア



▲印内台遺跡群から出土した
瑞花双鳳五花鏡の鏡背



▲瑞花双鳳五花鏡の鏡面。青銅製
で面径11.8cm、重量240.7g



▲梅花文鏡筥。木製で縦10.4cm、
横11.2cm、最大厚0.7cm

船橋市西部の台地上に広がる印内台
遺跡群。古代～中世にかけての遺跡で、
船橋市を代表する遺跡です。平成12年
(2000)に行われた発掘調査でこの遺跡から出

土したのが「瑞花双鳳五花鏡」と「梅花文鏡筥」。鏡は筥に納められ、脇を下
にして手足を折り曲げた姿勢(側臥屈葬)の遺体の脇に添えられていました。

瑞花双鳳五花鏡は、文様の特徴から12世紀前半に制作されたものと考
えられています。鏡は一般的に文様名と鏡式名を組み合わせで名付けられ、
この鏡は鏡背(裏面)の文様が「瑞花双鳳文」、鏡式が梅花をかたどった日
本独特の「五花鏡」のため、そう呼ばれています。

梅花文鏡筥は木製漆塗りの筥で、もともと円形の蓋と身が組み合う合子
状の筥だったと考えられ、鏡と密着していた蓋の一部分だけが奇跡的に残
ったものです。蓋の表には梅花文が20個ほど散らされ、この文様から12世
紀前半頃に制作されたと考えられています。

これらの資料は、船橋の歴史を知る上だけでなく、考古学や工芸
史においても注目を浴びる重要な資料です。五花鏡と当時それを納めてい
た筥がともに現存する例は、船橋のものを含め、現在、二例しか知られて
いません。

所 船橋市薬円台4-25-19 ☎ 047-465-9680 (船橋市郷土資料館)

📍 新京成電鉄 習志野駅から徒歩10分 📅 平成17年7月25日 【地図は右ページ参照】

P81・D-2 薬円台／郷土資料館 市指定史跡 見学自由

明治天皇より「習志野ノ原」の名を賜った地

習志野地名発祥の地

明治天皇駐蹕之處の碑

現在の習志野台・高根台の一带は、かつてこがねはら おおわだはら小金原・大和田原といわれ、江戸時代には幕府の牧（馬の放牧場）の一部でした。その後、明治7年（1874）～昭和20年（1945）までは陸軍の演習地とされていたところです。

明治6年（1873）4月29日、明治天皇は徳大寺宮内卿、西郷隆盛、篠原国幹ほか多数を従え、薩摩・長州・土佐の兵からなる四個大隊2800人の近衛兵を率いて、県下に初めて行幸されました。その夜激しい風雨のなか原野の幕舎に野営され、翌30日に天覧演習が行われました。天皇は5月1日に皇居（赤坂仮御所）に還御されましたが、5月13日、天皇より勅諭をもって、この原に「習志野ノ原」の名を授けられました。

郷土資料館建物の横にたてられたこの碑には、裏面に明治天皇がこの地に露営して演習を統監されたこと、この地が演習に適すると認め、永く陸軍操練場と定めたことが記されています。

（※この碑は習志野台4丁目のみゆき町会会館の脇にあったものを郷土資料館の横に移転したものです）



所 船橋市薬円台4-25-19

☎ 047-465-9680（船橋市郷土資料館）

交 新京成電鉄 習志野駅から徒歩10分

指 昭和43年12月19日



▲碑は仙台石製で、高さ3.9m、幅1.6m

薬円台・三山エリア

P82・B-3 飯山満町／能満寺

P82・B-1 高根町／観行院

市指定有形民俗文化財 見学の際は要事前連絡

船橋の八十八ヶ所遍路図

はち じゅう はち か しょ ふだ しょ おお え ま
八十八ヶ所札所大絵馬

飯山満町・高根町エリア

“八十八ヶ所札所”と聞いて思い浮かぶのは、四国八十八ヶ所遍路ではないでしょうか。四国八十八ヶ所遍路は、弘法大師空海が四国の山野をめぐって修行したという伝承にちなんで88ヶ所の霊場を巡拝するもので、室町時代頃から始められたといわれます。巡礼の目的は心願成就^{しんがんじょうじゆ}、先祖や親の供養、極楽往生などさまざまで、仏教と民間信仰が合わさり、今日見られるような遍路習俗が成立したと考えられています。

江戸時代になると四国八十八ヶ所遍路は一般の民衆にも広がりしました。四国巡礼が一般化されると「新四国八十八ヶ所」と呼ばれる霊場が各地に設定されるようになり、身近な霊場として盛んに信仰されるようになります。地域によっては独自の“講”^{こう}（神仏を祭り、または参詣する同行者で組織する）をつくって巡礼を行い、千葉県北西部だけで10余の講があったことが確認されています。船橋市にかかわる霊場としては、船橋西部から市川・松戸にかけての葛飾大師と、船橋・八千代・習志野・鎌ヶ谷・白井にまたがる吉橋組^{よしはしぐみ}八十八ヶ所霊場の二つがあります。吉橋組霊場は吉橋組大師講が運営しており、春秋の2回、5日間にわたって遍路が行われていました。

飯山満町^{はざまちょう}の1丁目の能満寺^{のうまんじ}と高根町^{かんぎょういん}の観行院^{しんごんしゅう}はともに真言宗豊山派^{ぶざんは}の寺院で、それぞれ吉橋組大師講の札所となっており、札所の配置と順路が描かれた扁額形式の大絵馬が一面ずつ奉納され、保存されています。

▶ 能満寺の八十八ヶ所札所大絵馬





能満寺に保存されているもの(P60下写真)は縦71cm、横89cmで、杉の三枚板に彩色で描かれています。八十八ヶ所の寺堂が描かれ、「一番吉橋 釈迦堂」「十二番 下飯山満 能満寺」など、札所の番次、地名、寺社名が書かれています。それぞれの寺堂は同一の様式で描かれています。能満寺だけには礼拝する二人の男女が描き添えられています。製作年ははっきりわかっていませんが、画風・技法などから、江戸時代末期から明治時代頃の製作と推定されています。

観行院に奉納されているもの(上写真)は縦71cm、横99.6cmで、能満寺と同様、杉の三枚板に彩色で描かれています。描かれている札所は八十八ヶ所のなかの八十六ヶ所。こちらも能満寺と同様「十五番 高根 観行院」というように札所の番次、地名、寺社名が書き込まれています。小金下野牧の放牧馬の姿のほかには海老川とその支流、桑納川と花見川も描かれており、船橋大神宮などの特色をもつ土地について特別に風景が描かれている点で能満寺のものと異なっています。

〈能満寺〉

- 所 船橋市飯山満町1-581
- ☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)
- 交 JR東船橋駅から芝山団地行きバスで「吹上」下車、徒歩10分
- 指 昭和57年3月31日

〈観行院〉

- 所 船橋市高根町1226
- ☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)
- 交 JR東船橋駅から船橋グリーンハイツ行きバスで「高根小学校前」下車、徒歩10分
- 指 昭和57年3月31日



P83・C-3 飯山満町／ゆるぎ地蔵

市指定有形文化財(彫刻) 見学自由

一木から彫られた仏像「ゆるぎ地蔵」

もく ぞう じ ぞう ぼ さつ ざ ぞう 木造地蔵菩薩坐像

飯山満町2丁目の堂に安置されている木造地蔵菩薩坐像は「ゆるぎ地蔵」と呼ばれています。一木から彫られた像で、像高は172cm、頭頂からあごまでの長さは50cm、蓮台の高さは29cmあります。

江戸時代、この地には「揺ぎの松」と呼ばれる古松がありました。この松は有名な巨木で、根が地上から立ち上がり、根方をくぐると梢まで揺らいだので、この名が付いたといわれています。この松が枯死したとき、それを惜しんだ里人が木食僧に2体の地蔵菩薩を彫刻してもらい、小さいほうを薬円台の高幢庵に移し、大きいほうを松のあったこの場所に残したとされています。

「揺ぎの松」は、寛延2年(1749)の『葛飾記』にも紹介されていますが、松の立つ位置が誤って記述され、高幢庵の木っぱ地蔵が揺ぎの松で作られたとされています。作者はともに木食僧観信と伝えられていますが、この真偽は確かではありません。ほぼ同時期に作られた2体の地蔵と、揺ぎの松、木食僧観信が結び合わされて考えられた可能性もあるといわれています。



◀「ゆるぎ地蔵」と呼ばれている木造地蔵菩薩坐像

飯山満町・高根町エリア



所 船橋市飯山満町2-744-1

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

🚗 東葉高速鉄道 飯山満駅から徒歩10分 指 昭和40年3月17日

P83・C-3 飯山満町／東葉高校

国登録有形文化財(建造物)

見学の際は要事前連絡

豪農の屋敷の門

東葉高等学校正門(旧近藤家住宅長屋門)

平成13年4月に国登録有形文化財になった「東葉高等学校正門」。この門は上飯山満村の旧家近藤四郎左衛門家の屋敷の門として使われていたものです。

近藤四郎左衛門家は江戸時代に複数の旗本の知行地と幕府の直轄地に分かれ、それぞれに名主のいた上飯山満村で名主総代を務めていた豪農です。江戸時代末期には、同村に接していた小金下野牧とよばれる幕府の牧場の牧士にも任命されています。牧士は幕府の役人の配下として牧場の維持管理を任せられ、乗馬・帯刀などを許される、農村においてはほとんど身分の高い存在だったといわれています。

門の規模は桁行11間2尺(約20.6m)、梁行2間半(約4.5m)の長大なもので、腰は彫子下見、上部を白漆喰塗とし、正面と背面にせがいをつけ、棧瓦葺の寄棟屋根を載せています。築造年代がわかるものは残されていませんが、造りなどから明治時代中期頃に建てられたと推定されています。

現在の門は、東葉高等学校が近藤家屋敷跡に建設されるのにあわせて修復され、「東葉門」の名称で同校の正門として活用されています。



所 船橋市飯山満町2-670-1

☎ 047-436-2898

(船橋市教育委員会 文化課)

交 東葉高速鉄道 飯山満駅から徒歩10分

登 平成13年4月24日

飯山満町・高根町エリア



▲現在は東葉高等学校の正門として活用されている

P85・C-4 古和釜町／東光寺 市指定有形文化財(彫刻) 見学自由

全国行脚の最後の地に安置された石仏

せき ぞう じ きゅう だい とく ぞう
石造自休大徳坐像

高さ27cmの石造自休大徳坐像



背中には「自休大徳」の文字が刻まれている



北部エリア

石造自休大徳坐像は東光寺の厨子に納められていたものです。高さ27cm、袈裟をかけた僧形の坐像で蓮華座の上に載せられ、像の背面には「自休大徳」という文字が刻まれています。

背面の文字の“自休”とは江戸時代初期の侠客、深見十左衛門の号です。古伝によると、十左衛門の父は福島正則の武将で、十左衛門自身も藤堂家に仕える高禄の士でしたが、自ら浪人し侠客の頭になりました。しかしその後、幕府に捕らえられて島流しになり、約30年後に赦されて江戸に戻ってくると、剃髪して自休と号し、江戸駒込片町（現在の東京都文京区本駒込）の龍光寺内に庵を結びました。

剃髪後に石工に刻ませたのがこの石仏といわれ、十左衛門に長い間仕えたものが、その没後にこの像を持って全国を行脚し、最後にたどり着いたのが古和釜の地だったため、石仏を東光寺に安置したと伝えられています。

所 船橋市古和釜町365

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 JR船橋駅または新京成電鉄 北習志野駅からバスで「古和釜十字路」下車、徒歩3分

指 昭和40年3月17日



P84・B-4 大穴北／西光院墓地 市指定史跡 見学自由

船橋が生んだ著名な文化人を物語る史跡

俳人齋藤その女の墓

齋藤その女は江戸時代後期に活躍した女流の俳人です。松平氏知行所5ヶ村（現在の^{おおあな}大穴・^{こわがま}古和釜・^{つばい}坪井・^{かねほり}金堀・旧永治村白幡）の名主総代をつとめた豪農の家に生まれました。齋藤家は俳諧を好む風があって幼い頃からその影響を受け、当時有名だった江戸の俳人^{なつめせいび}夏目成美などに師事しました。天保7年（1836）には亡夫の7年忌に合わせて^{さいこういん}西光院に供養塔を造立。塔には「^{はととぎす}極楽の鐘をかぞへて杜鵑」という句が刻まれています。

老境に入ってからその女は、有望な若手俳人を後援したり、自ら何人かの弟子に俳諧の指導もしています。神仏をあつく信心する晩年のその女は「ただ俳（俳諧）と仏との二筋に心をよせておのずから禅味を悟る」と評されています。

文久元年（1861）の春にはその女80歳の祝賀の会がひらかれ、秋には記念に『^{たのむかげしゅう}憑蔭集』という句集を作って関係者に配りました。この句集の巻頭には親交のあった江戸の詩絵師の^{まきえ}柴田是^{しばた}真^{ぜしん}が描いたその女の絵が載せられており、交友のあった俳人たちの句も多数収載されています。

その女は慶応4年（1868）に87歳（あるいは88歳）で死去しました。墓石は夫の没後にその女が建立したとみられる唐破風付の豪華なものです。

二宮神社には市指定文化財「齋藤その女等奉納句額」（P56）があります。



所 船橋市大穴北5-3-1
☎ 047-436-2898
（船橋市教育委員会 文化課）
交 JR船橋駅、新京成電鉄 北習志野駅からバスで「古和釜十字路」下車、徒歩10分
指 昭和40年3月17日



◀墓石は唐破風付の豪華なもの

P84・B-1 大神保町／西福寺 市指定有形文化財（彫刻） 見学の際は要事前連絡

胡粉地に施した彩色がほぼそのまま残っている

もく ぞう び しゃ もん てん りゅう ぞう 木造毘沙門天立像

江戸時代初期の作と推定される西福寺の「木造毘沙門天立像」。像高は60cm、寄木造・彩色仕上げで、玉眼が入れられており、像の胎内には明暦2年（1656）板行の法華経が納められています。台座の高さは23cmで、二邪鬼まで一材で作られています。

左手と掌の宝塔、光背の輪宝光は後から補われたものだと考えられていますが、右手にもつ三叉戟は製作当初のものとみられます。また胡粉地（胡粉の下地）に施した彩色はほぼそのまま残っていますが、台座は胡粉まで剥落してしまっています。

西福寺はもとは一向宗の寺でしたが、戦国時代に日国によって日蓮宗の寺として再興されました。寺はその後、日国の子の日用が継ぎ、日用が慶長17年（1612）に没していることから、この木造毘沙門天立像は、日用かその子の日玉が残したものと考えられています。



像は現在、本堂内に安置されているが、もとは境内の毘沙門堂にあった

所 船橋市大神保町282

☎ 047-436-2898

（船橋市教育委員会 文化課）

交 JR船橋駅北口、新京成電鉄 三咲駅からバスで「西福寺入口」下車、徒歩10分

指 昭和41年2月22日

【地図は右ページ参照】

鎌倉時代の貴重な板碑

板碑いた び (弘安九年七月十五日在銘) こうあん く ねん しち がつじゅう ご にち ざい めい

「弘安九年七月十五日」と紀年銘が刻まれた西福寺の板碑。縦57cm、幅27.5cmの武蔵型板碑で、石質は粘板岩です。山形の頂部には二条線の切り込み、身部の上部は天蓋で飾られ、蓮華座には阿弥陀如来の種子であるキリークが大きく彫られています。

大きさは中型ですが、薬研彫り(溝がV字型の彫り方)で深く、見事に彫られています。下部は欠失してしまっているものの、残存部は傷みも少なく、保存状態は良好です。

寺伝によると、この板碑は江戸時代前期に西福寺と合併した円福寺跡

(西福寺から西に200mほどの場所)から出土したものだといわれています。西福寺・円福寺は共に、元は一向宗でしたが、室町時代末期頃に日蓮宗に改宗したと伝えられています。この伝承の真偽はともかく、板碑は日蓮宗改宗前のものであり、郷土資料としての価値も高いものです。

所 船橋市大神保町282

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 JR船橋駅北口、新京成電鉄 三咲駅からバスで「西福寺入口」下車、徒歩10分

指 昭和41年2月22日



▲板碑には梵字のキリークが大きく彫られている

北部エリア



き おろし 木下街道

木下街道は江戸時代には物資や人々の往来が盛んであった街道です。道沿いには寺社や文化財が点在しています。お散歩がてら、地域の歴史に触れにいきましょう。



街道の反対側には上山神明社の参道入口の鳥居が見える



藤原新家を拓いた鈴木家、安川家の塔碑が数多く建っている



堂内には「木造観世音菩薩立像」が安置されている（秘仏で公開はされていない）



境内には鎮守の杜らしい風情が残っている



表通りから少し入ったところにある



木下街道

古くは銚子道や鹿島道と呼ばれ、八幡(市川市)の東から鎌ヶ谷・白井を経由して、利根川沿いの木下に至る道です。貞享4年(1687)8月には鹿島での月を見ようと、松尾芭蕉が門人とこの道を通りました。明治42年(1909)には鎌ヶ谷と中山を人車鉄道が開通しました。



戊辰戦争で亡くなった、官軍兵士の墓



鳥居をくぐり、階段を上った先に社殿がある

お散歩行程表(所要:半日程度) 総距離 6.3km

馬込駅	→	23分	駒形神社	→	16分	官軍兵士の墓	→	14分	馬込天満宮	→	11分	法典公民館	→	24分	上山神明社	→	5分	藤原神明社	→	5分	藤原観音堂	→	6分	中法伝貝塚	→	7分	七面堂	→	6分	船橋法典駅
-----	---	-----	------	---	-----	--------	---	-----	-------	---	-----	-------	---	-----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-----	---	----	-------

坪井周辺

市内北東部に位置する坪井周辺の「源七山遺跡」「中井台遺跡」などでは、数々の遺構・遺物が発見されています。このほか、昔の村境やその近くの道に建てられたという庚申塔などの石造文化財、寺社などもあり、文化財散策におすすめの地域です。



この馬頭観音供養塔は大正3年(1914)に造立された



野馬が田畑を荒らしたり、村に侵入するのを防ぐために築かれた、二重土手の野馬除土手がこの地にあった



大日如来が祀られた太山堂。手前には文化12年(1815)の手水石がある

「坪井」の由来

坪井という地名の由来には諸説ありますが、①「坪」は小さい・狭いを意味し、狭い谷間にできた集落(=居=ゐ)の意とする、という説が一般的なようです。他にも②「井」が井戸・泉・湿地帯などを意味することから、壺穴上の井戸(泉)があったから付いた地名、③古代条里集落の地目の単位「坪」のなかの小集落が語源になった、などの説がありますが、正確なところはわかっていません。

お散歩行程表(所要:半日程度) 総距離 5.4km

船橋日大前駅	→	庚申塚	→	太山堂	→	道祖神	→	馬頭観音	→	子安神社	→	西光寺	→	八王子神社	→	安養寺	→	船橋日大前駅
	23分		1分	1分		3分		7分		13分		11分		19分		27分		



坪井の鎮守。創立年代などはわかっていない。境内には子安塔などの石造文化財が並ぶ



寺背後の墓地からは中世の板碑が多数出土し、境内には江戸初期の墓石が散在するため近世以前の建立と思われる



古和釜町の古和釜のマアチ(P19)、オビシャ(P35)などが行われる八王子神社。鎮守の森は郷土環境保全地域に指定されている



寺の入り口には享保16年(1731)の題目塔や安永10年(1781)の日蓮上人供養塔などの石造文化財が並ぶ

海老川沿い

市内中央からいくつもの川が合流して東京湾へと注ぐ海老川。この海老川にかかる橋の欄干には特徴的なレリーフが設置されているものも多く、往来する人の心を和ませてくれます。川の側にある太宰治の旧居跡と共に、川沿いを散歩してみましょう。

総距離 3km



空を飛ぶ鷹のレリーフが欄干の上に立っている。14橋の中で唯一の木製の橋



スポーツ健康都市のシンボル「汗一平」の像が立っている。付近には海老川ジョギングロードで練習を重ねた有森裕子選手の記念碑も



桜の名所としても知られる海老川沿い。春には両岸に植えられた約500本の桜が川面を覆うように咲き誇る

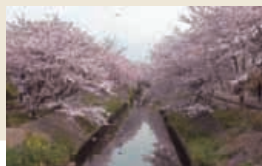
海老川の由来

市内の金杉にある御滝山金蔵寺内の湧水を源流に、船橋の中心市街地を流れる海老川。この地を訪れた源頼朝にこの川で取れた海老を献上したという伝説が名称の由来ともいわれています。



四季を表す女性の像が4体立っている。隣には船橋中央卸売市場がある

「さくら橋」の名称は市民公募で決まった。さくら橋周辺の川沿いには桜並木が続いている





太宰治の肖像と「走れメロス」の一節を刻んだレリーフがある。ここから太宰治の旧居跡までは徒歩2分ほど

太宰治は昭和10年(1935)7月から1年3ヶ月あまりを旧船橋町五日市本宿で過ごした



これより先、海老川は船橋港から東京湾に流れ込む。船橋橋から最寄の駅「大神宮下」までは徒歩5分ほど



ポランディア精神をイメージして作られ、市のポランディアキャラクター「さざんかさっちゃん」の像が立っている

愛らしい親子カッパの像が欄干の端に立っている。海へのロマンをイメージして作られた



船橋大神宮

大神宮下駅



東京湾

船橋港

船橋橋

八千代橋

海老川橋

丸山橋

九重橋

新海老川橋

海老川入道橋

だざいおさむきゅうきよと
太宰治旧居跡



京成本線

JR総武本線

海老川入道橋



子供の楽隊の行進とばか面踊りの像が欄干に並ぶ。人の和を表現したレリーフも見られる

人をテーマに高欄の手すりには、海そして生物の姿をメルヘンタッチで彫像化している



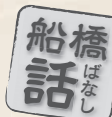
「手のひらを太陽に」の歌碑とブロンズ像、音符の高欄が特徴の栄橋。音楽をイメージして作られた



欄干の中央、船の先端部の道路側には、船橋の地名の由来と故・泉重千代さんの手形のレリーフがある



追込み漁など昔なつかしい風景などのレリーフが飾られている



50年、33年に一度など

限られたときにしか 見られない文化財

船橋市の文化財のなかには、限られたときにしか見られない貴重なものもあります。千葉県無形民俗文化財「しも下総三山の七年祭り」は6年ごとの丑年および未年に行われ、数え年で7年ごとに行わ



▲下総三山の七年祭り

れることから“七年祭り”と呼ばれています。船橋市・八千代市・習志野市・千葉市から九つの神社が下総三山に集まる寄合祭りです。行事は9月の小祭、11月の大祭からなり、大祭は3日間にわたって行われます。今回は平成27年に行われます。

夏見の長福寺に安置されている市指定有形文化財「むくそうしやうかん ぜ木造聖観世音菩薩立像」は、50年に一度御開帳されます。像は像高56.8cm、蓮台に立ち、厨子に納められています。現状は古色一色ですが、これは元禄期の補修の際のものともみられ、かつては漆箔が施されていたと思われます。近年では平成元年(1989)に御開帳されました。

33年に一度御開帳される市指定有形文化財「むくそうかん ぜ おん ぼ さつりやう木造聖観世音菩薩立像」は藤原観音堂の本尊で、像高は83cm、頭部と体幹部は一木で造り、両肩より先の部分と両足、天衣は別材です。江戸時代前期に成立した藤原新田に建てられた堂に、元禄3年(1690)、藤原とゆかりの深い行徳の徳願寺から観音像を請い受けて安置したといわれ、当初から秘仏とされていました。観音菩薩は33通りに姿を変えて衆生を救うということに由来し、33年に一度、御開帳されてきました。近年では平成6年11月に御開帳されています。



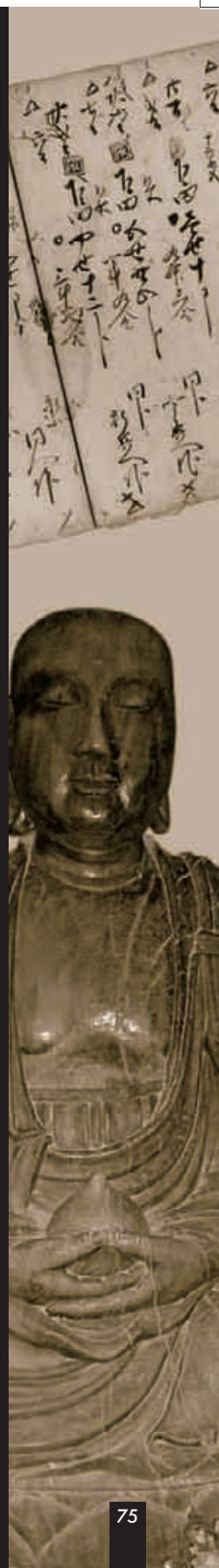
▶長福寺の木造聖観世音菩薩立像

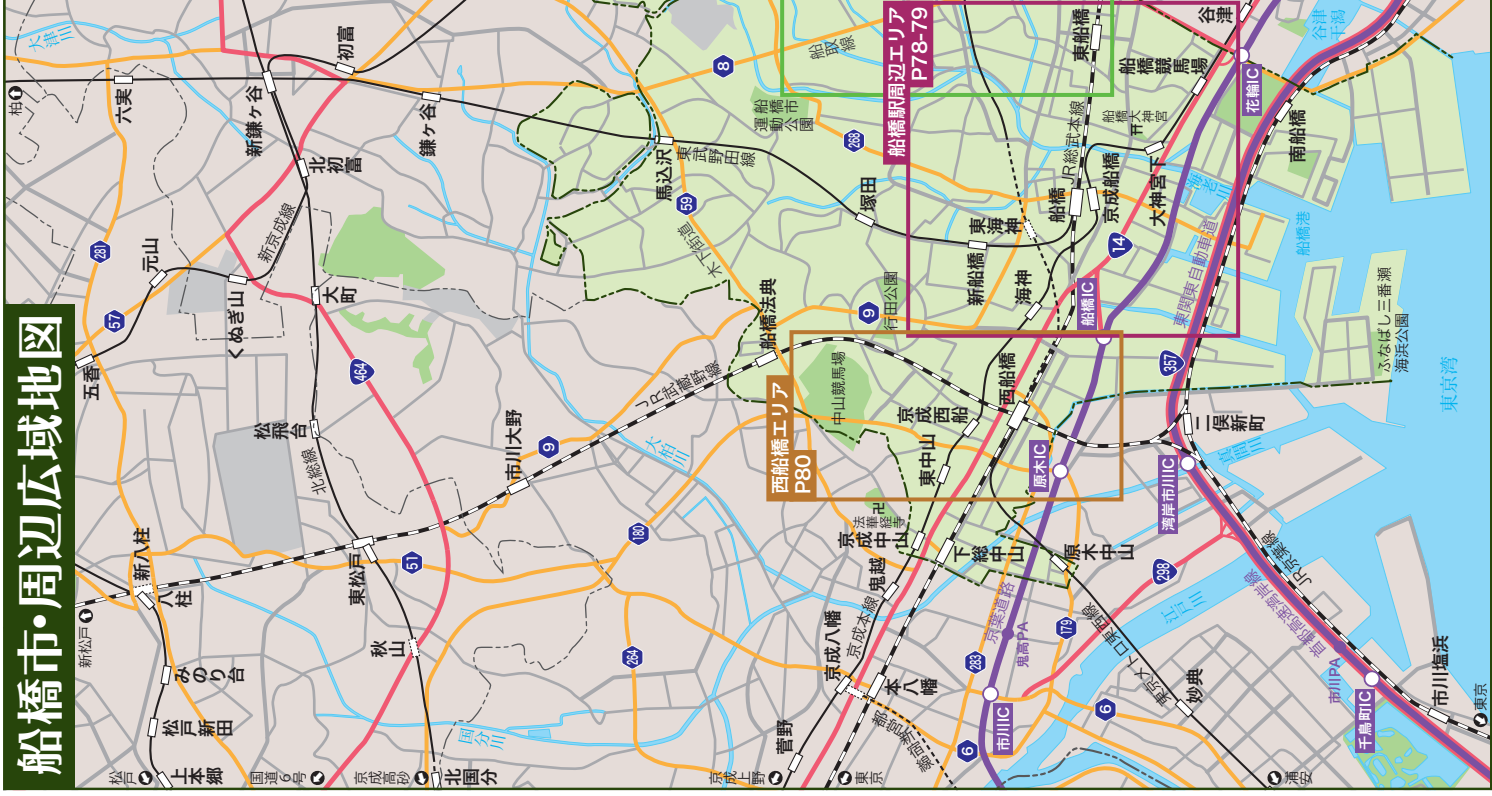


▲藤原観音堂の
木造観世音菩薩立像

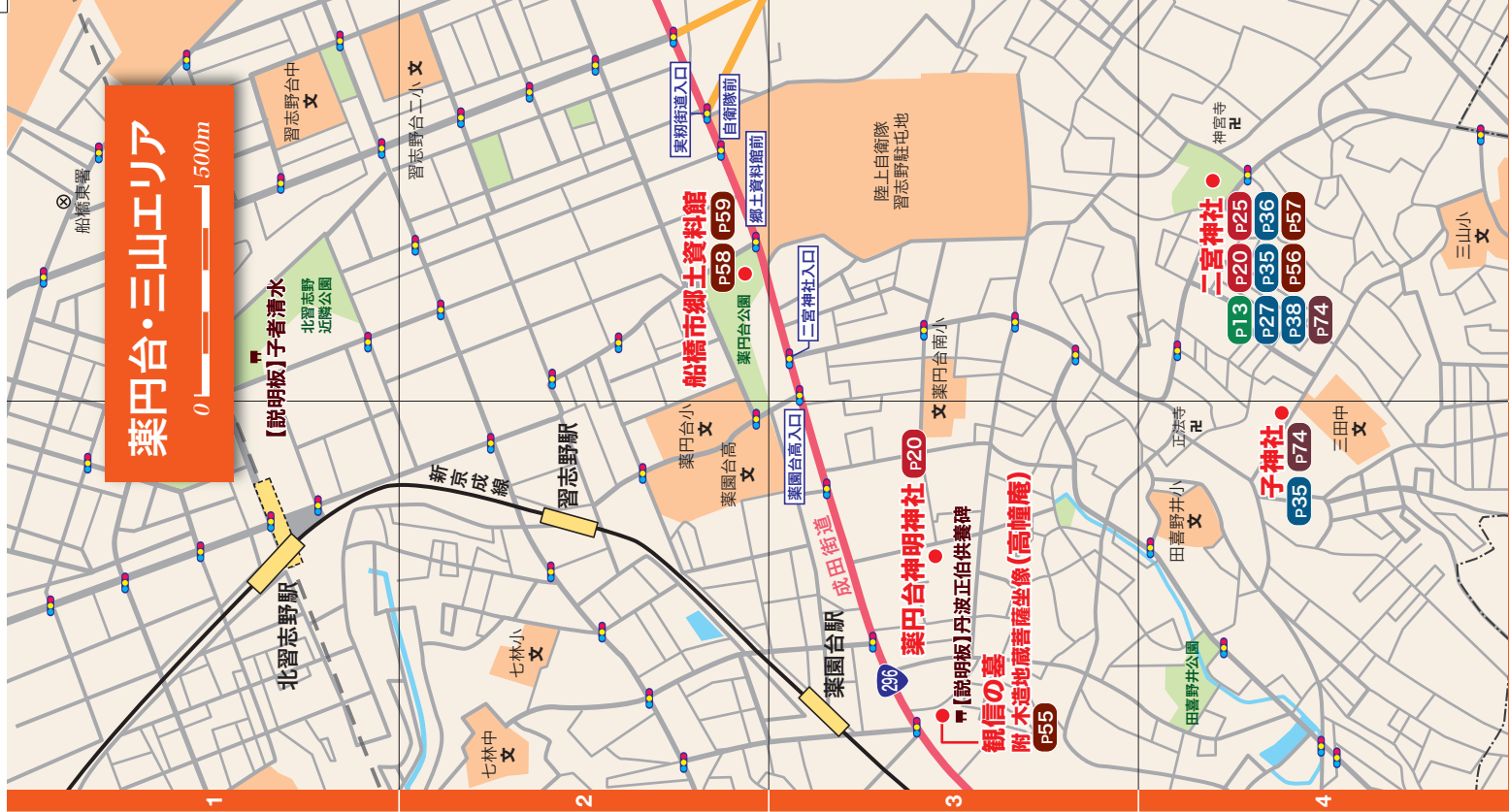
資料編

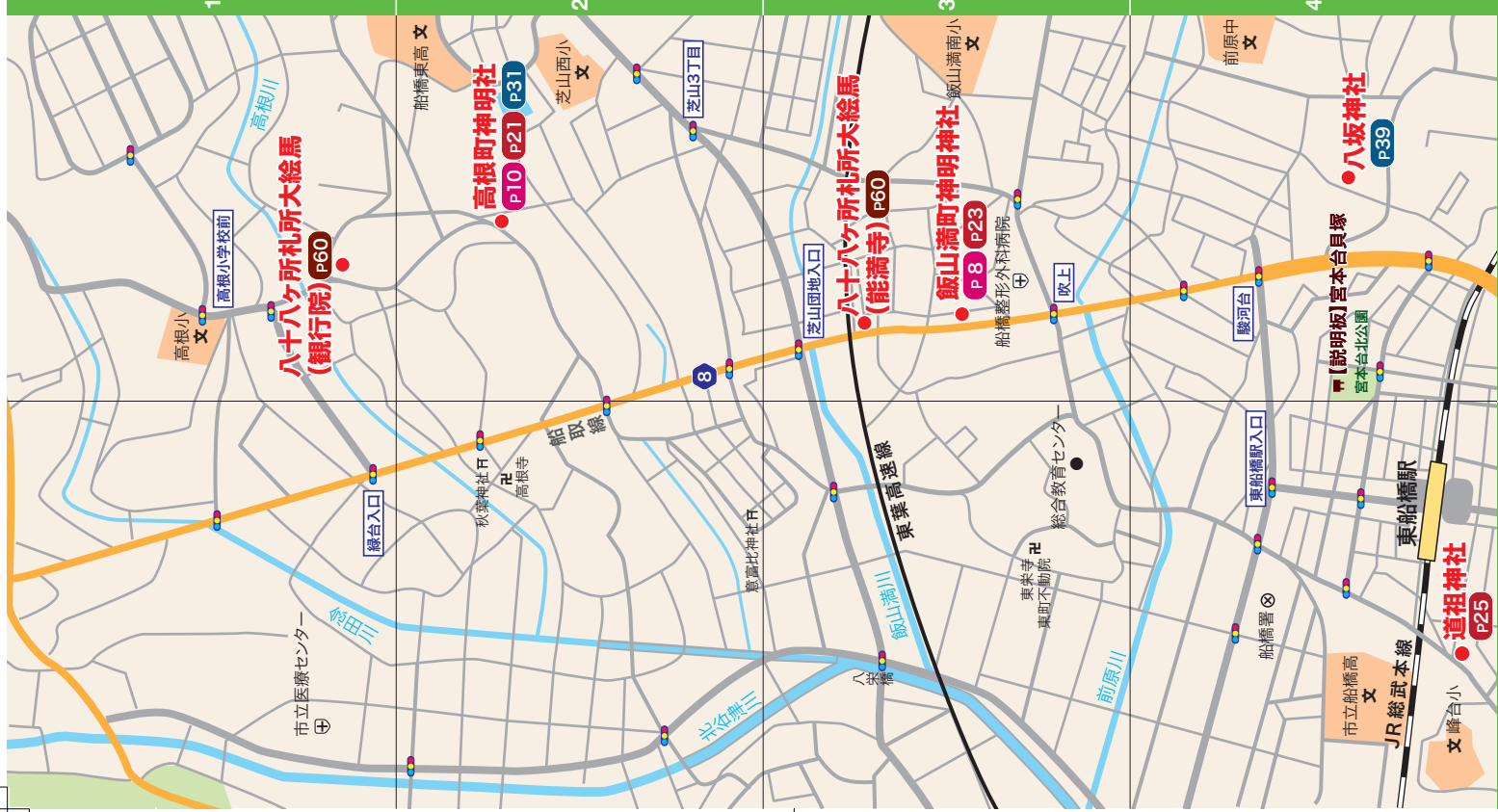
- ・ エリア地図
- ・ 交通路線図
- ・ 船橋市略年表
- ・ 船橋市内の指定文化財・登録文化財
- ・ 参考文献
- ・ 五十音索引



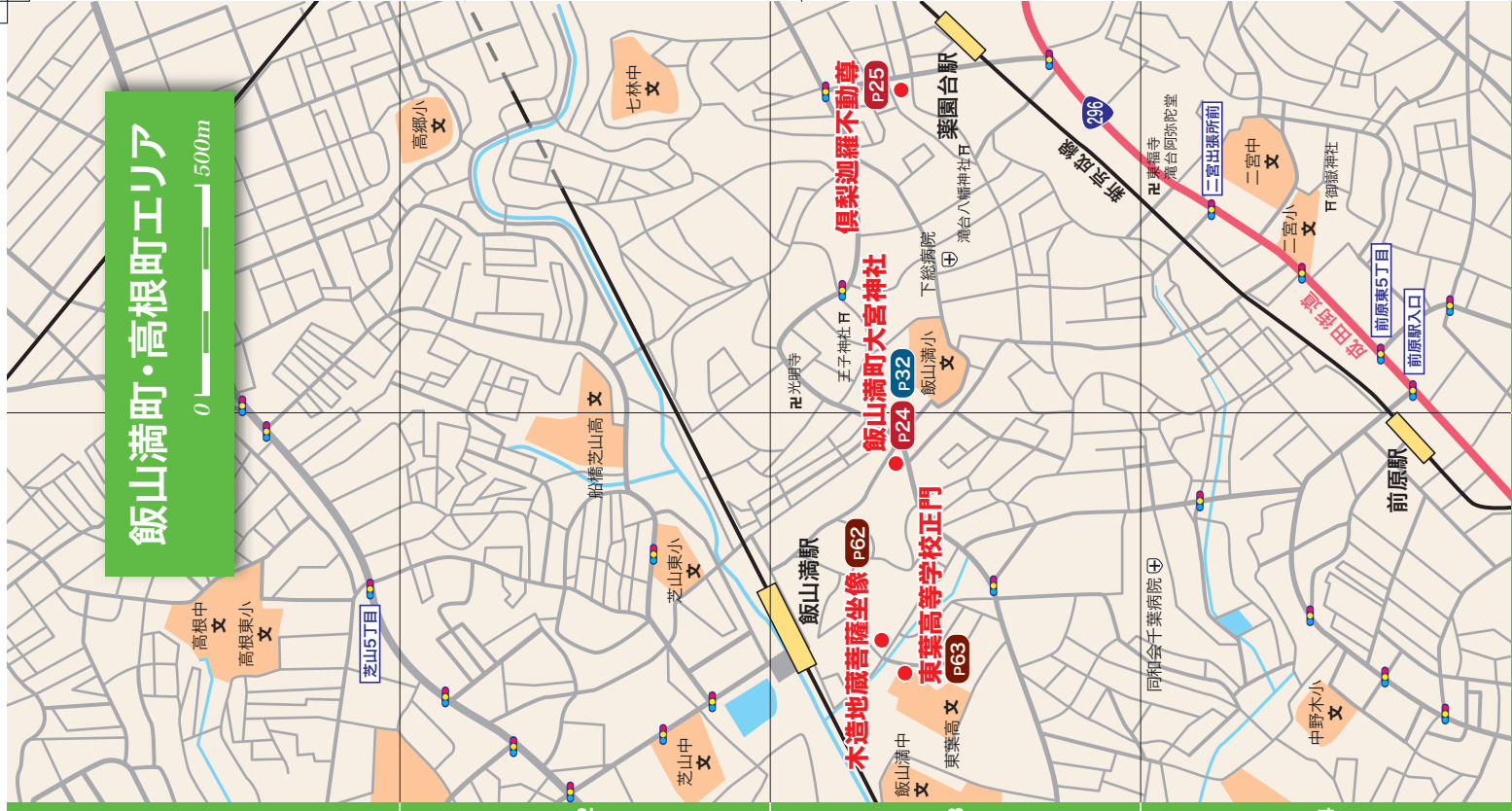








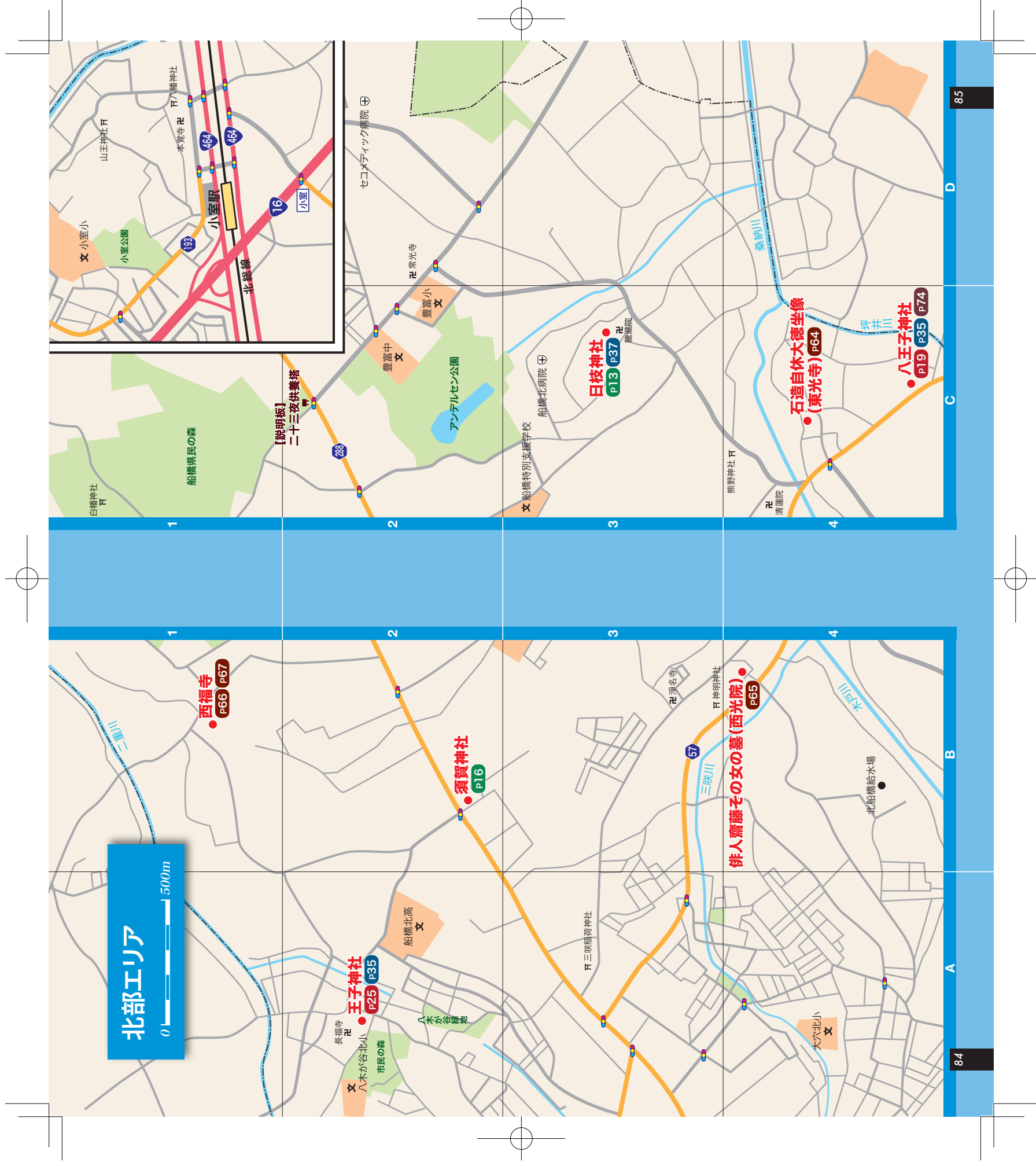
82



83

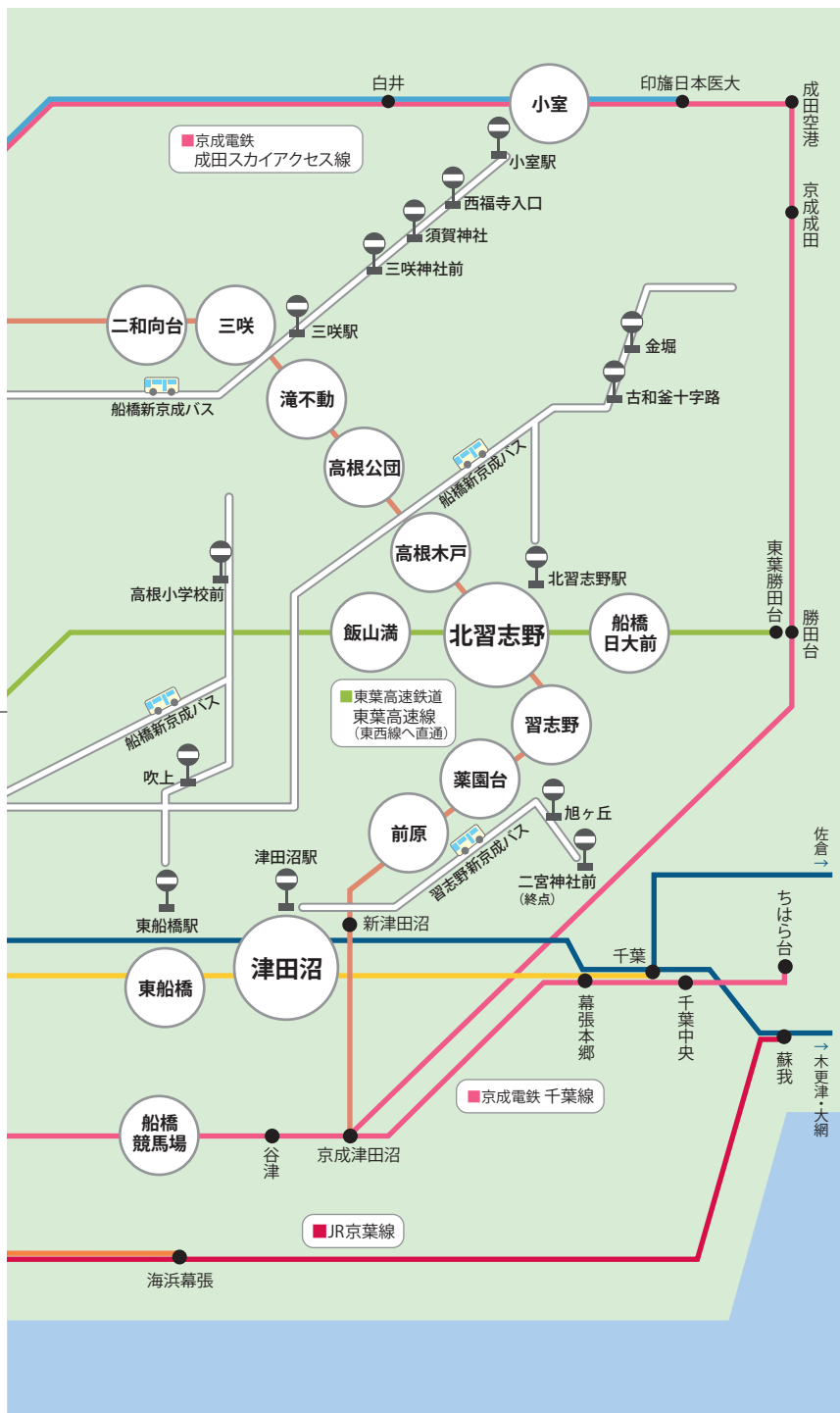
飯山満町・高根町エリア

0 500m



文化財めぐりに活用しよう！
本書に掲載された文化財の最寄り駅・
バス停までのアクセスをまとめました





Memo

船橋市略年表

時代	西 暦	年 号	船橋地域の出来事など	日本の出来事など
旧石器時代	30000年前頃		印内台遺跡群 西の台遺跡・八人割遺跡・向遺跡・ 源七山遺跡	
	BC14000頃 BC 9500頃	(草創期) (早期)	取掛西貝塚・飛ノ台貝塚・ 佐倉道南遺跡・小室上台遺跡	
縄文時代	BC 5200頃	(前期)	法蓮寺山貝塚・八栄北遺跡・ 飯山満東遺跡	
	BC 3500頃	(中期)	海老ヶ作貝塚・高根木戸遺跡・ 高根木戸北貝塚	
	BC 2500頃	(後期)	藤原観音堂貝塚・宮本台貝塚・ 古作貝塚	
	BC 1300頃	(晩期)	金堀台貝塚	
弥生時代	BC 400頃	(前期) (中期) (後期)	夏見大塚遺跡・夏見台遺跡・ 立場遺跡・台畑遺跡	
	AD 250頃	(前期) (中期) (後期)	西の台遺跡・辺田台遺跡 外原遺跡・柏上遺跡・ 白井先D地点遺跡 夏見台遺跡群・印内台遺跡群・ 海神台西遺跡・東中山台遺跡群	
古墳時代	538			仏教伝来 (552年説もある)
	645 700頃	大化 元	律令制で下総国葛飾郡に属する 市川に下総の国府がおかれる	大化の改新
奈良時代	710	和銅 5		平城京に都を移す
平安時代	794 863	延暦 13 貞観 5	『日本三代実録』に「下総国意富 比神」の名がみえる	平安京に都を移す

時代	西 暦	年 号	船橋地域の出来事など	日本の出来事など
平安時代	927	延長 5	『延喜式』に「意富比神社」の記載がある	平将門が反乱をおこす（～940）
	935	承平 5	『倭名類聚抄』の郷名に「栗原」の名が出ている	
	1138	保延 4	夏見周辺が伊勢神宮の荘園になる	
	1186	文治 2	『吾妻鏡』に「船橋御厨」の名が出ている	
鎌倉時代	1192	建久 3	同年号の板碑が大神保西福寺に残る	源頼朝が征夷大將軍となる
	1274	文永 11		元軍が襲来（文永の役）
	1281	弘安 4		元軍が襲来（弘安の役）
	1286	弘安 9		
	1331	元弘 元		『中山法華經寺文書』に「古牟呂村」（小室）の名みえる
南北朝時代	1333			鎌倉幕府が減じる
室町時代	1467	応仁 元	後北条氏と里見氏が国府台で戦う // 高城氏の勢力下となる	応仁の乱が起こる（～1477）
	1538	天文 7		
	1564	永禄 7		
	1570頃			
安土・桃山時代	1590	天正 18	徳川家康が関東に移封され、市西部は成瀬氏の領地となる	豊臣秀吉が全国を統一する
	1600	慶長 5		関ヶ原の戦い
江戸時代	1603	慶長 8		徳川家康が江戸幕府を開く
	1614	慶長 19	御成街道（東金街道）が造成された	
	1615	元和 元	徳川家康一行が船橋御殿に宿泊した	大坂夏の陣で豊臣氏が滅亡
	1673頃	延宝年間	藤原・上山・行田・丸山・前原・滝台・神保の新田が開墾される	
	1703	元禄 16	大地震により、船橋浦では海底の地形が変わったという	

時代	西 暦	年 号	船橋地域の出来事など	日本の出来事など
江戸時代	1721	享保 6	幕府の大砲試射場で大砲の試射が行われた	ペリーが浦賀に 来航する
	1722	享保 7	下総薬草園が開かれた (後の薬園台)	
	1725	享保 10	小金原で将軍家御鹿狩り (後に3回行われた)	
	1785頃	天明年間	西海神浜で塩業が本格化	
	1824 1853	文政 7 嘉永 6	漁場争いで漁師総代が牢死する	
近代	1868	明治 元	船橋大神宮周辺・海神などで官軍 と幕府方脱走兵の戦闘がある 戦火により船橋宿の大半が焼失	版籍奉還
	1869	明治 2	二和・三咲の開墾が始まる 現市域の大部分が葛飾県の管轄 となる	
	1871	明治 4	現市域が印旛県の管轄となる	廃藩置県
	1872	明治 5	船橋小学校が開校した	学制公布
	1873	明治 6	明治天皇が大和田原で近衛兵の 演習を統監する 千葉県が誕生した	地租改正条例公布
	1877	明治 10		西南戦争がおこる
	1889	明治 22	市町村制が施行され、現市域は 1町6村となる	大日本帝国憲法発布
	1894	明治 27	総武鉄道が開通し、船橋駅がで きる	日清戦争がおこる (～1895)
	1901	明治 34	船橋沖で海苔の養殖が本格的に 始まる	日露戦争がおこる (～1905)
	1904	明治 37		
	1914	大正 3		第一次世界大戦が おこる(～1918)
	1915	大正 4	行田に海軍の無線電信所ができる	
	1916	大正 5	京成電気軌道が船橋駅まで延長 された	
	1917	大正 6	津波で大きな被害を受ける	

時代	西 暦	年 号	船橋地域の出来事など	日本の出来事など
近代	1923	大正 12	北総鉄道が船橋駅～柏駅間に開通した	関東大震災がおこる 普通選挙法公布
	1925	大正 14		
現代	1937	昭和 12	2町3村が合併し、船橋市が誕生した	第二次世界大戦がおこる(～1945)
	1939	昭和 14		
	1946	昭和 21	新京成電鉄が新津田沼駅～薬園台駅間に開通した	日本国憲法公布
	1947	昭和 22		
	1953	昭和 28	二宮町が合併された	オリンピック 東京大会開催
	1954	昭和 29	豊富村が合併された	
	1955	昭和 30	新京成電鉄が松戸駅まで全線開通した 船橋ヘルスセンターが営業を開始した(昭和55年営業休止)	
	1956	昭和 31	大規模な埋立てが始まった	
	1960	昭和 35	京葉道路が海神まで開通した 住宅公団前原団地の入居が開始した	
	1964	昭和 39		
	1969	昭和 44	中央卸売市場が開場した。 東西線が西船橋駅まで延長された	
	1972	昭和 47	総武快速線が開通した	
	1978	昭和 53	武蔵野線が西船橋駅まで延長された	
	1979	昭和 54	北総開発鉄道が小室駅～北初富駅間に開通した	
	1981	昭和 56	ららぽーとがオープンした	
	1983	昭和 58	人口が50万人を超える	
	1986	昭和 61	京葉線が西船橋駅～千葉みなと駅間に開通した	
	1996	平成 8	東葉高速鉄道が西船橋駅～東葉勝田台駅間に開通した	東日本大震災がおこる
	2003	平成 15	船橋市が中核市となる	
	2011	平成 23		

船橋市内の指定文化財

区分	No.	種 別	名 称	員数	所在地または伝承地	所有者等	ページ
					指定年月日	見学	
県	1	有形文化財 (建造物)	さいふくじせきざうごりんとう 西福寺石造五輪塔 さいふくじせきざうほうきよういんとう 西福寺石造宝篋印塔	1基 1基	船橋市宮本6-16-1 昭和42年12月22日	西福寺 自由	42
	2	有形文化財 (彫刻)	もくぞうざおうこんげんさんぞんりゅうぞう 木造蔵王権現三尊立像	3躯	船橋市前原東5-43-1 (御嶺神社) 昭和33年4月23日	千葉県指定文化財 蔵王権現保存会 非公開	—
	3	有形文化財 (彫刻)	もくぞうごちによらいざう 木造五智如来坐像	5躯	船橋市西船3-3-4 平成5年2月26日	正延寺 毎年元日のみ見学可能	29
	4	有形文化財 (工芸品)	なんばんどうくそく 南蛮胴具足 つけたりかぶと、こて、はいだて、すねあて 附 兜、籠手、佩楯、臍当	1領 1式	船橋市内 平成20年3月18日	個人 事前連絡が必要	—
	5	有形文化財 (古文書)	てんしょうけんちちよう 天正検地帳	1冊	船橋市本町4-38-28 (船橋市中央図書館) 昭和57年4月6日	船橋市 図書館内PCで閲覧可能	44
	6	有形民俗文化財	とうみょうだい 灯明台	1基	船橋市宮本5-2-1 昭和37年5月1日	意富比神社・船橋大神宮灯明台保存会 事前連絡が必要	43
	7	無形民俗文化財	こむろのししまい 小室の獅子舞		船橋市小室町 昭和39年4月28日	小室獅子講 現在は中止	17
	8	無形民俗文化財	しもうさみやまのしちねんまつり 下総三山の七年祭り		船橋市・千葉市・ 八千代市・習志野市 平成16年3月30日	七年まつり保存会 自由	74
	9	史跡	めいじてんのうふなばしあんざいしよ 明治天皇船橋行在所		船橋市本町3-3-4 昭和9年12月18日	千葉銀行 自由	46
市	10	有形文化財 (建造物)	にのみやじんじやしゃでん 二宮神社社殿	1棟	船橋市三山5-20-1 平成4年2月27日	二宮神社 自由	57
	11	有形文化財 (建造物)	なんだりゅうおうどう 難陀龍王堂	1棟	船橋市本町3-24-6 平成7年3月28日	覚王寺 自由	47
	12	有形文化財 (絵画)	きよかわコレクション (とくせん) 清川コレクション (特選)	8点	船橋市湊町2-10-25 平成17年7月25日	船橋市 通常の公開はなし	—
	13	有形文化財 (彫刻)	せきぞうじきゅうだいとくざう 石造自休大徳坐像	1躯	船橋市古和釜町365(東光寺) 昭和40年3月17日	古和釜町石仏保存会 自由	64
	14	有形文化財 (彫刻)	もくぞうじぞうぼさつざう 木造地藏菩薩坐像	1躯	船橋市飯山満町2-744-1 昭和40年3月17日	ゆるぎ地藏保存会 自由	62
	15	有形文化財 (彫刻)	もくぞうびしもんてんりゅうぞう 木造毘沙門天立像	1躯	船橋市大神保町282 昭和41年2月22日	西福寺 事前連絡が必要	66
	16	有形文化財 (彫刻)	もくぞうかんぜおんぼさつりゅうぞう 木造観世音菩薩立像	1躯	船橋市藤原3-2-18 昭和41年2月22日	藤原堂 非公開 (33年ごとに御開帳)	74
	17	有形文化財 (彫刻)	もくぞうあみだによらいりゅうぞう 木造阿弥陀如来立像	1躯	船橋市海神1-17-16 (念仏堂) 昭和42年3月20日	念仏堂世話人 事前連絡が必要	48
	18	有形文化財 (彫刻)	もくぞうしょうかんぜおんぼさつりゅうぞう 木造聖観世音菩薩立像	1躯	船橋市夏見6-23-3 昭和46年3月5日	長福寺 非公開 (50年ごとに御開帳)	74
	19	有形文化財 (彫刻)	もくぞういなりしんりゅうぞう 木造稻荷神立像	1躯	船橋市内 昭和53年10月25日	個人 事前連絡が必要	—
	20	有形文化財 (古文書)	ふなばしうらぎょうかんけいこもんじょるい 船橋浦漁業関係古文書類	一括	船橋市本町4-38-28 (船橋市中央図書館) 昭和47年12月21日	船橋市 図書館内PCで閲覧可能	45
	21	有形文化財 (古文書)	なるせけもんじょ 成瀬家文書	一括	船橋市内 昭和63年7月22日	個人 図書館内PCで閲覧可能	—
	22	有形文化財 (考古資料)	いたび(こうあんくねんしがつじゅうごにちざいめい) 板碑(弘安九年七月十五日在銘)	1基	船橋市大神保町282 昭和41年2月22日	西福寺 事前連絡が必要	67
	23	有形文化財 (考古資料)	いたび(こうえいよねんにかつざいめい) 板碑(康永四年二月在銘)	1基	船橋市内 昭和51年3月31日	個人 非公開	—
	24	有形文化財 (考古資料)	ずいかそうほうごかきよう 瑞花双鳳五花鏡 ばいもんかみかみばこ(ざんけつ) 梅花文鏡箱(残欠)	1面 1点	船橋市薬門台4-25-19 (船橋市郷土資料館) 平成17年7月25日	船橋市 展示については要確認	58

区分	No.	種 別	名 称	員数	所在地または伝承地 指定年月日	所有者または管理者 見学	ページ
市	25	有形文化財 (歴史資料)	さいとうそのじょ(め)らほうのうかく 齋藤その女等奉納句額	1面	船橋市三山5-20-1 昭和55年10月23日	二宮神社 事前連絡が必要	56
	26	有形民俗文化財	はちじゅうはちかしふだしよおおえま 八十八ヶ所札所大絵馬	1面	船橋市飯山満町1-581 昭和57年3月31日	能満寺 事前連絡が必要	60
	27	有形民俗文化財	はちじゅうはちかしふだしよおおえま 八十八ヶ所札所大絵馬	1面	船橋市高根町1226 昭和57年3月31日	観行院 事前連絡が必要	
	28	無形民俗文化財	はしごのりときやりうた 梯子乗りと木遣り歌		船橋市内(ふなばし市 民まつり会場など) 昭和44年4月17日	船橋煮職組合 若書会 自由	14・33
	29	無形民俗文化財	たいぶつついぜんくよう 大仏追善供養		船橋市本町3-4-6 (不動院) 昭和47年12月21日	船橋市漁業協同組合 自由	40
	30	無形民俗文化財	じんぼばやし 神保ばやし		船橋市神保町102 (須賀神社) 昭和54年7月28日	神保ばやし保存会 自由	16
	31	無形民俗文化財	ふなばしだいじんぐうのかぐら 船橋大神宮の神楽		船橋市宮本5-2-1 平成7年6月26日	船橋大神宮楽部 自由	9・28・30・38
	32	無形民俗文化財	にのみやじんじやのかぐら 二宮神社の神楽		船橋市三山5-20-1 平成7年6月26日	二宮神社神楽はやし連 自由	20・36・38
	33	無形民俗文化財	たかねちょうしんめいしゃのかぐら 高根町神明社の神楽		船橋市高根町600 平成7年6月26日	高根町神明社神楽連 自由	10・21・31
	34	無形民俗文化財	はさまちょうおおみやじんじやのかぐら 飯山満町大宮神社の神楽		船橋市飯山満町2-843 平成7年6月26日	大宮神社神楽楽人 自由	24・32
	35	無形民俗文化財	なかのきのつじぎり 中野木の辻切り		船橋市中野木1丁目 平成9年4月24日	中野木町会 自由	39
	36	史跡	かんしんのはかつたりもくぞうじぞうぼさつぞう 観信の墓 附 木造地藏菩薩坐像		船橋市薬門台1-1(高幢庵) 昭和40年3月17日	木つば地藏保存会 自由	55
	37	史跡	はいじんさいとうそのじょ(め)のはか 俳人齋藤その女の墓		船橋市大穴6-5-3-1 昭和40年3月17日	西光院 自由	65
	38	史跡	ふなばしごてんあとなつたりとうしょうぐう 船橋御殿跡 附 東照宮		船橋市本町4-29-12 昭和40年3月17日	本町4丁目町会 自由	49
	39	史跡	かづらのい 葛羅の井		船橋市西船6-4-5 昭和40年3月17日	葛羅の井保存会 自由	53
	40	史跡	しょうろうどうあとなつたりわどけいしよくさんじんひつ 鐘楼堂跡 附 和時計 蜀山人筆		船橋市宮本7-7-1 昭和41年2月22日	了源寺 事前連絡が必要	50
	41	史跡	ならしのちめいはつしょうのち 習志野地名発祥の地 つたり めいじてんのうちゅうひつところのひ 附 明治天皇駐蹕之處の碑		船橋市薬門台4-25-19 (船橋市郷土資料館の横) 昭和43年12月19日	船橋市 自由	59
	42	史跡	なるせしのはか つたり ぼし 成瀬氏の墓 附 墓誌		船橋市西船6-2-30 昭和45年5月20日	宝成寺 自由	54
	43	史跡	とびのだいはいづか 飛ノ台貝塚		船橋市海神4-260-1ほか 平成9年5月16日	船橋市 自由(博物館内は有料)	51

船橋市内の登録文化財

区分	No.	種 別	名 称	員数	所在地 登録年月日	所有者 見学	ページ
国	44	有形文化財 (建造物)	とうようこうとうがっこうせいもん 東葉高等学校正門 (きゅうこんどうけいしよくたくながやもん) (旧近藤家住宅長屋門)	1棟	船橋市飯山満町2-670-1 平成13年4月24日	学校法人船橋学園 事前連絡が必要	63
	45	有形文化財 (建造物)	たまがわりよかん ほんかん 玉川旅館 本館	1棟	船橋市湊町2-6-25	個人	
	46	有形文化財 (建造物)	たまがわりよかん だいいちべっかん 玉川旅館 第一別館	1棟			52
	47	有形文化財 (建造物)	たまがわりよかん だいにべっかん 玉川旅館 第二別館	1棟	平成20年4月18日	事前連絡が必要	



参考文献

出版物名	頁	内容
船橋市の文化財(H23.3.31 改訂)	68	船橋市内の文化財をオールカラーで紹介。B3サイズの文化財マップも付録で添付
船橋市史 原始・古代・中世編	567	先土器時代から戦国時代までの通史、遺跡と遺物の語る中世の船橋
船橋市史 近世編	462	船橋区域が大きく発展した江戸時代の通史
船橋市史 民俗・文化財編	623	船橋の民俗、船橋の文化財
船橋市史 史料編(一)	567	古代・中世史料、近世の検地帳、房総三国の改革組合村地頭姓名帳ほか
船橋市史 史料編(二)	824	近世。藤原新田の御用留の元禄～文政年間分、高根村・大神保村の御用留三点
船橋市史 史料編(三)	1047	近世。藤原新田の御用留の天保～安政年間分
船橋市史 史料編(四・上)	793	近世。村政、村入用、村方出入、経営と生活
船橋市史 史料編(四・下)	805	近世。支配、村政、村況、年貢・負担、救恤、鉄砲、鷹場、御鹿狩り、戊辰戦争
船橋市史 史料編(五)	659	旧町村誌及び郷土誌。船橋町誌(二種類)・葛飾町案内・二宮郷土誌本・塚田村誌・豊富村誌(二種類)ほか
船橋市史 史料編(六)	933	明治20年代～昭和20年までの船橋町・市の事務報告、大正期の葛飾村事務報告ほか
船橋市史 史料編(七)	773	明治5年の学制以後、昭和20年までの市内小学校の沿革と日誌
船橋市史 史料編(八)	586	明治3年～昭和28年までの行政・財政、議会・選挙、軍事・御猟場、保健・衛生、民生・福祉、社会・生活
船橋市史 史料編(九)	428	近・現代の産業・土地・租税、交通・道路、災害、教育、宗教、軍事の史料
船橋市史 史料編(十)	590	近世。村政村況、年貢、交通宿場、漁業、牧場、教育、宗教、近代。行・財政、土地・租税、交通・宿場、漁業、教育・宗教
船橋市の石造文化財	519	近世～現代の石仏・石碑・石塔・石祠等3000点余りを表出し、概説を付したもの
船橋市の遺跡	1488	32の遺跡・遺物、実測した古墳1・中世城館址4ヶ所などについて写真・図版を中心に収載して解説を付したもの
市史読本 船橋のあゆみ	249	原始時代から中核市誕生までの船橋の歴史を一冊に収めている
船橋市史研究(1)	84	「船橋市八木ヶ谷王子における中世墓址発掘調査概報」「近世旗本領村落における年貢と先納金」など
船橋市史研究(2)	64	「船橋市内の句類」「天保期の家内紛争にみる家と村と支配」「船橋市域における行政区画の変遷(表)」など
船橋市史研究(3)	48	「船橋鉄道の挫折と北総鉄道の開通まで」「戊辰房総戦乱について」「江戸明治期の郷土の俳人に関する碑」
船橋市史研究(4)	48	「船橋市内発見の骨に関する2・3の所見」「近世船橋地域の鷹場について」「船橋市域の近世牧場について」など
船橋市史研究(5)	28	「房総の戊辰戦争 戦死者墳墓と史料」「船橋旧市街地周辺の将門伝説」「絵画に描かれた昔の船橋(二)」
船橋市史研究(6)	45	「西船正延寺 木造五智如来坐像について」「史料にみる船橋市内の小金牧土」「町奉行与力給知の基礎構造」
船橋市史研究(7)	36	「近世後期における農民の経営と生活」「栗原藩成瀬家資料調査報告」
船橋市史研究(8)	69	「藤原新田における村方騒動の基礎的研究」「三山の七年祭」
船橋市史研究(9)	69	「『梅園毛利氏探案紀行図会』について」「民権結社「啓蒙会」とその活動」「印内台遺跡について」
船橋市史研究(10)	25	「幕末期下総国葛飾郡高根村における生活」「船橋市域の塚について」
船橋市史研究(11)	48	「東京湾岸の塩田について」「民話と私」「民俗行事金堀町のホウネンボウ」
船橋市史研究(12)	76	「船橋市内における主要遺跡」「船橋市地域選出県会議員の発言録―県会議事録(議事速記録)から」
神楽面	106	1984年3月 船橋市郷土資料館刊行
船橋市郷土資料図録 11 庚申塔 1	96	1994年3月 船橋市郷土資料館刊行
地域研究資料 1 地形図	101	1995年3月 船橋市郷土資料館刊行
薬園台の歴史 正伯物語	159	2003年3月 船橋市郷土資料館刊行
絵はがき 一写真に残された明治～大正～昭和一	111	2005年3月 船橋市郷土資料館刊行
新版 船橋のあゆみ	128	2008年3月 船橋市郷土資料館刊行
船橋歴史風土記 改訂	227	1987年3月 斎書房刊行
郷土史の風景	206	1990年7月 船橋よみうり新聞社刊行
クローズアップ郷土史	154	2001年2月 船橋よみうり新聞社刊行

五十音索引

あ

板碑（弘安九年七月十五日在銘）	67
海老川沿い（お散歩マップ）	72,73
大火揚	27
オビシャ	35
お舟流し	13

か

海神の天道念仏	7
葛羅の井	53
金堀の初ばやし	37
金堀のハウネンボウ	13
観信の墓 附 木造地藏菩薩坐像	55
木下街道（お散歩マップ）	68,69
小室の獅子舞	17
古和釜のマアチ	19

さ

齋藤その女等奉納句額	56
西福寺石造五輪塔・西福寺石造宝篋印塔	42
下総三山の七年祭り	74
正延寺 木造五智如来坐像 御開帳	29
鐘楼堂跡 附 和時計 蜀山人筆	50
神保ばやし	16
瑞花双鳳五花鏡・梅花文鏡宮（残欠）	58
水神祭	9
石造自休大徳坐像	64
節分祭	38

た

大仏追善供養	40
高根町神明社の神楽	10,21,31
玉川旅館（本館・第一別館・第二別館）	52
筒粥神事	36
坪井周辺（お散歩マップ）	70,71
出初式	33

天正検地帳	44
灯明台	43
灯明台祭	34
東葉高等学校正門（旧近藤家住宅長屋門）	63
飛ノ台貝塚	51
酉の市	28

な

中野木の辻切り	39
晋志野地名発祥の地 附 明治天皇駐蹕之處の碑	59
成瀬氏の墓 附 墓誌	54
難陀龍王堂	47
二宮神社社殿	57
二宮神社の神楽	20,36,38

は

俳人齋藤その女の墓	65
飯山満町大宮神社の神楽	24,32
飯山満町神明神社の神楽	8,23
梯子乗りと木遣り歌	14,33
八十八ヶ所札所大絵馬	60,61
春ギトウ	37
船橋浦漁業関係古文書類	45
船橋御殿跡 附 東照宮	49
船橋市の夏祭り	15
ふなばし市民まつり	14
船橋大神宮の神楽	9,22,28,30,38
奉納相撲	22

ま

明治天皇船橋行在所	46
木造阿弥陀如来立像	48
木造観世音菩薩立像	74
木造地藏菩薩坐像	62
木造聖観世音菩薩立像	74
木造毘沙門天立像	66